

取扱説明書

SHIBAURA

バンカーレーキ

BR-01



当製品を、安全に正しくお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をした場合、事故をまねくおそれがありますので安全には十分注意して作業してください。お読みになった後は、必ず製品と一緒に大切に保管してください。

株式会社IHIアグリテック

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、**シバウラバンカーレーキ**をお買上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買上げいただいた販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「**安全に作業をするために必ずお守りください**」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買上げいただいた販売店へご相談ください。
- マスターキーとスペアキーは、別々にして大切に保管してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。

【重要】

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

本製品の使用 目的について

本製品は、バンカーの整地作業を目的とした作業機ですので、それ以外には使用しないでください。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。）

本文の概要

1 章

安全に作業をするために
必ずお守りください

- 安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目をみてください。また、各安全銘板の内容と貼付け位置を示しています。

2 章

保証とサービスについて

- 保証とアフターサービスについて説明しています。

3 章

各部のなまえと
各操作部のはたらき

- 本文中、よく使う部品の名称の紹介と、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。

4 章

運転と作業のしかた

- エンジンの始動から走行のしかた、およびバンカーレーキの使用のしかたを説明しています。

5 章

作業後の手入れについて

- 機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。

6 章

手入れと点検・
調整について

- 長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。

7 章

不調診断

- 正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。

8 章

その他

- 仕様、および主要消耗部品について説明しています。

9 章

電気回路図

- 電気回路図を載せています。

10 章

オプションについて

- オプションの使用のしかたを説明しています。

目次

はじめに	1
お願い	1
おことわり	1
説明記号の見方（危険・警告・注意・重要）	2
本製品の使用目的について	2

本文の概要	3
-------	---

1 章	安全に作業をするために必ずお守りください	6
1.	作業者の体調・服装について	6
2.	使用する機械について	7
3.	運転前・作業前点検をするとき	8
4.	作業をするとき	14
5.	トラックへの積込み・積降しをするとき	19
6.	格納をするとき	22
7.	安全銘板の貼付け位置	23

2 章	保証とサービスについて	25
	保証書は大切に保管してください	25
	アフターサービスをお受けになるときは	25
	機械の廃棄について	25

3 章	各部のなまえと各操作部のはたらき	26
------------	-------------------------	-----------

4 章	運転と作業のしかた	28
1.	運転前の点検	28
2.	燃料の点検・給油のしかた	30
3.	エンジンの始動・停止のしかた	30
4.	発進・旋回・変速・停止のしかた	33
5.	作業のしかた	38
6.	デフロックペダルのつかいかた	41
7.	坂道での運転のしかた	42
8.	作業場への出入りのしかた	42
9.	トラックへの積込み・積降しのしかた	43

5章 作業後の手入れについて

44

1. 作業後の手入れ……………44
2. エンジンカバーの開けた……………45
3. 長期間使用しない場合の手入れ……………45

6章 手入れと点検・調整について

48

1. 定期点検一覧表……………49
2. 各部の注油・グリスアップのしかた……………51
3. 各部オイルの点検・交換のしかた……………53
4. エアクリーナの点検・洗浄のしかた……………57
5. 燃料こし器の掃除のしかた……………59
6. 燃料ホース・電気配線の点検のしかた……………59
7. 点火プラグの点検のしかた……………60
8. ヒューズの点検・交換のしかた……………61
9. バッテリーの点検、整備のしかた……………61
10. タイヤ空気圧の調整のしかた……………63
11. ハンドルの点検のしかた……………63
12. ブレーキの点検のしかた……………64
13. クラッチレバーの点検のしかた……………64
14. レーキの点検・交換のしかた……………65
15. H S Tペダルの点検のしかた……………65
16. 締付けをするところ……………66

7章 不調診断

68

1. エンジンがかからない……………68
2. エンジンの力がない……………69
3. 各部に振動が多い……………69
4. レーキ昇降シリンダが動作しない……………69

8章 その他

70

1. 主要諸元……………70
2. 主要消耗部品……………71

9章 電気回路図

72

10章 オプションについて

74

1章 安全に作業をするために必ずお守りください

- 本機はゴルフ場のバンカーの整地作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。
 - ここに記載されている注意項目は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
 - ここに記載されている注意項目を守らないと死亡を含む傷害事故や機械の破損が生じるおそれがあります。
- ※ご購入された製品によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1. 作業者の体調・服装について

⚠ 警告

■こんなときは運転しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 睡眠不足の人。
- 視力不足のため表示内容が読めない人。
- 取扱説明書の内容が理解できない人。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18歳未満の人。
- 運転が未熟な人。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。



■作業に適した服装

はち巻き・首巻き・腰タオル・音楽用のイヤホンなどは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



2. 使用する機械について

⚠ 注意

■点検、整備をおこなう

使用前と使用後には必ず機械の点検、整備をしてください。特に、ブレーキペダル・ハンドル・HSTペダルなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。

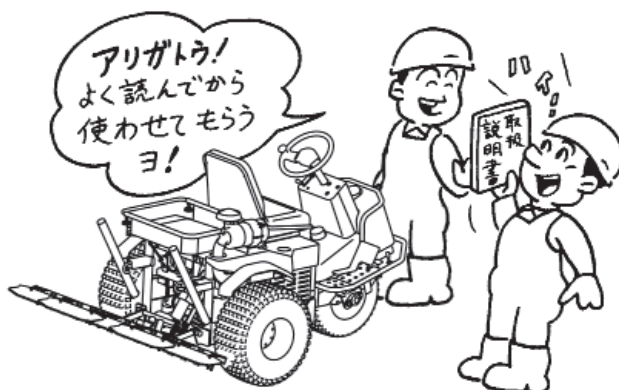


■機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

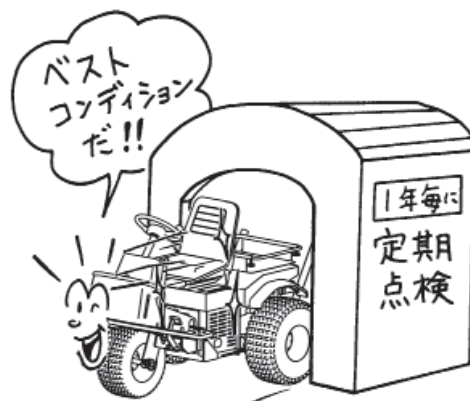


■定期点検、整備を受ける

1年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



■安全銘板が破損しているときは、新しいものと交換する

本機には、操作安全銘板が貼り付けてあります。内容を十分に理解して、その内容に従ってください。操作銘板が汚れて読めなくなった場合は、きれいにふき取り、読めるようにしてください。またはがれて紛失した場合などは、販売店に注文し、新しい銘板を貼り付けてください。

【守らないと】

誤った操作により、事故をひきおこす原因になります。



3. 運転前・作業前点検をするとき

⚠ 危険

■点検・整備時はレーキ下に手を入れない 【守らないと】

何らかの原因でレーキが落下し、傷害事故をおこすおそれがあります。



■注油・給油はエンジンが冷えてから

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。

エンジンが熱い間は
注油・給油はしないで...



■指定の燃料を使用

取扱説明書で指定している燃料を使用してください。

【守らないと】

性能が落ちたり火災事故をおこすおそれがあります。



■燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災をおこすおそれがあります。



⚠ 危険

■ 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料補給後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



■ 燃料もれに注意

燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



■ 必ず指定のバッテリーを使用

バッテリーを交換するときは、必ず指定のバッテリーを使用してください。

【守らないと】

火災の原因となることがあります。



■ バッテリーの点検は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリーに引火し、爆発して火傷などを引き起こすおそれがあります。



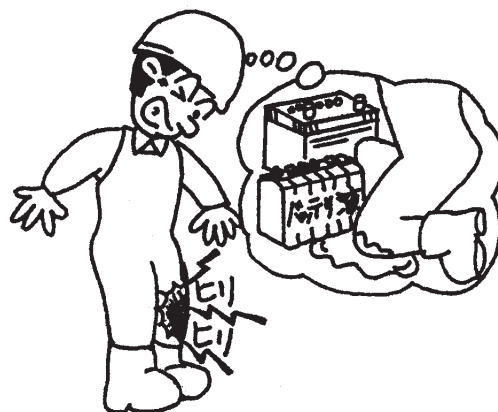
⚠ 危険

■ バッテリー液は体につけない

バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

火傷をしたり、服が破れるおそれがあります。



■ バッテリー取付け、取外しは正しい手順で

バッテリーを取付けるときは⊕側を先に取付け、取外すときは⊖側から外します。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故を引き起こすおそれがあります。



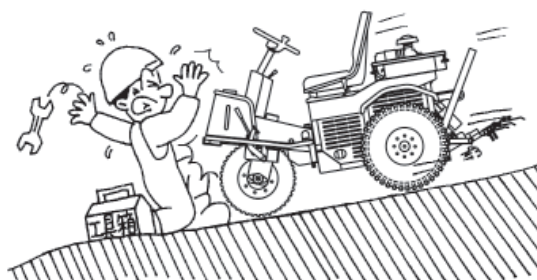
⚠ 警告

■ 点検、整備は平坦な安定した場所で

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、タイヤには車止めをして点検、整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■ バッテリー液を「下限 (LOWER)」以下にしない

バッテリー液は「上限 (UPPER LEVEL)」と「下限 (LOWER LEVEL)」の間にあることを確認し、「下限 (LOWER LEVEL)」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限 (LOWER LEVEL)」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



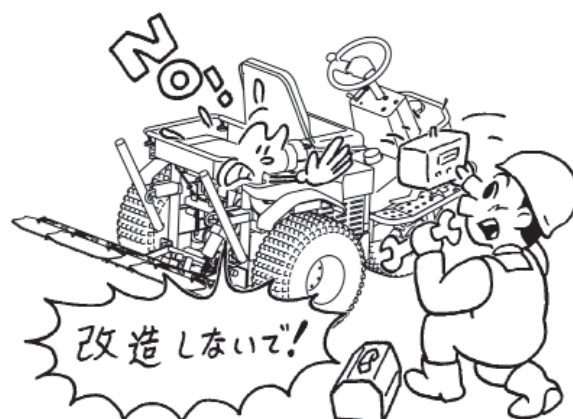
⚠ 警告

■機械の改造禁止

純正部品以外の部品を取付けないでください。
改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

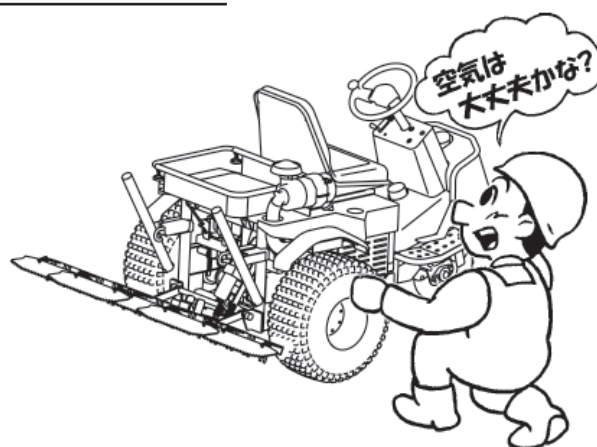


■タイヤは必ず点検

タイヤの空気圧を標準空気圧に調整してください。タイヤに亀裂がないか確認してください。

【守らないと】

タイヤがパンクして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■タイヤホイール取付ボルトの締付け確認とホイールの傷のチェック

タイヤホイールの取付けボルトは、確実に締付けてあるか確認してください。そのときにホイールに傷がないかも確認してください。

【守らないと】

タイヤが外れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。

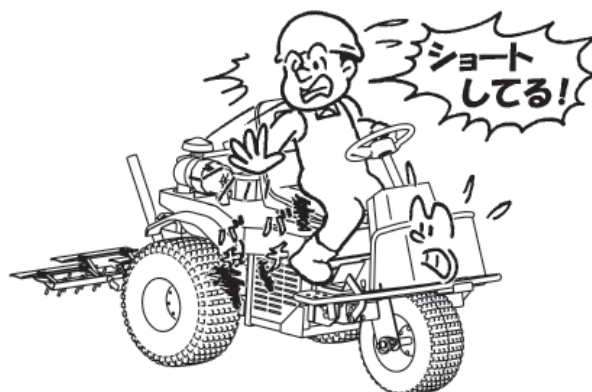


■電気部品・コードを必ず確認

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接続部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故をおこすおそれがあります。



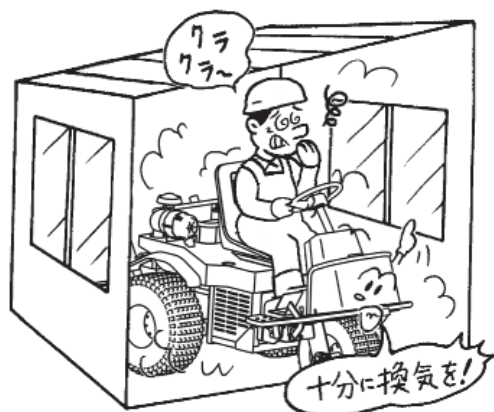
⚠ 警告

■排気ガスには十分に注意

閉切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



■マフラー・エンジン回りのゴミは取除く

マフラーやエンジン周辺部に草やゴミ・燃料などが付着していないか、またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引き起こすことがあります。



⚠ 注意

■ブレーキ・ハンドルは必ず点検

ブレーキの効きが悪かったり、片効きしていないか、またハンドルに著しいガタや遊びがないか、点検してください。

【守らないと】

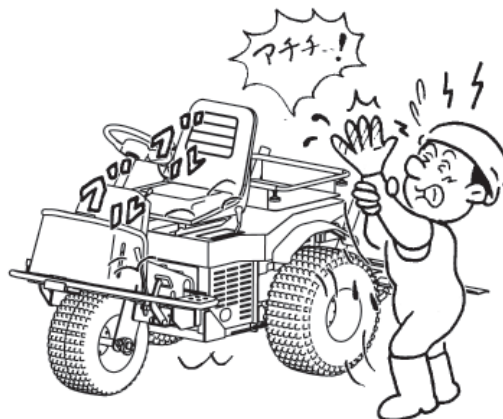
事故を引き起こすおそれがあります。



■点検、整備は高温部が十分冷えてから マフラーやエンジンなどの高温部分が十分に冷えてから点検、整備をしてください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこしたり、火傷をするおそれがあります。



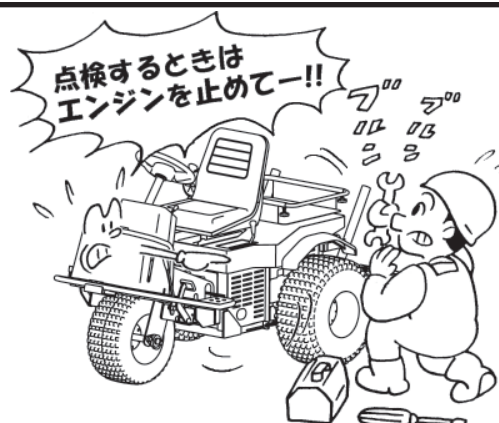
⚠ 注意

■点検、整備中はエンジン停止

点検、整備、修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

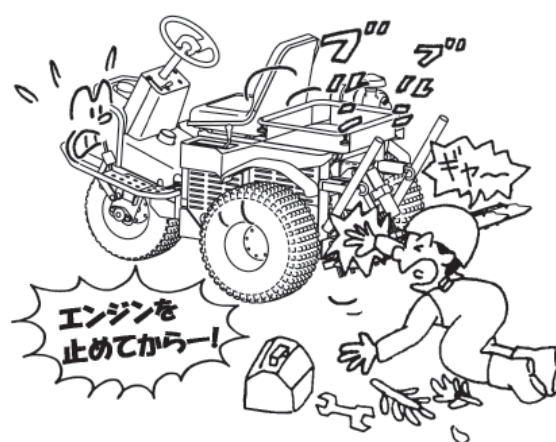
機械の下敷きや巻込まれてけがをするおそれがあります。



■部品を交換したり、巻付いた草などを取除くときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻込まれて重傷を負うおそれがあります。



■高圧オイルに注意

油圧ホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、点検や修理などで、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは、皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故をおこすおそれがあります。

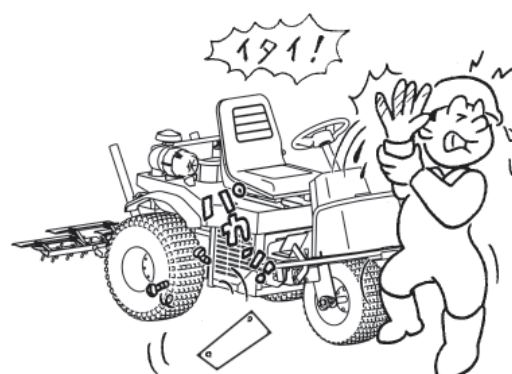


■カバー類は、必ず取付ける

点検、整備などで取外したカバー類は、所定の位置に必ず取付けてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



4. 作業をするとき

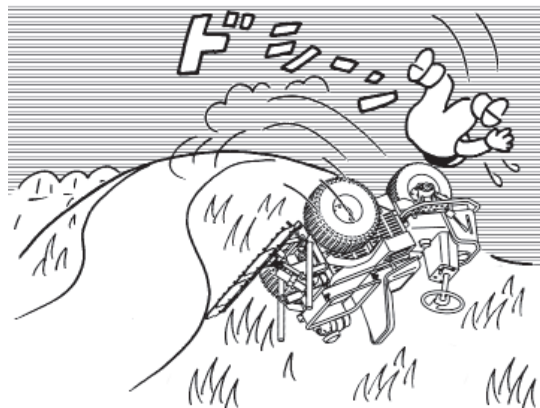
⚠ 危険

■ 夜間作業禁止

本機を使用する夜の作業や、暗闇での点検はしないでください。

【守らないと】

本機に巻込まれたり、視界がきかずバランスを崩し、転倒・転落などの事故によりけがをすることがあります。



■ 後進するときは低速で

後進で移動するときは低速で行い、後方に障害物がないか確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。

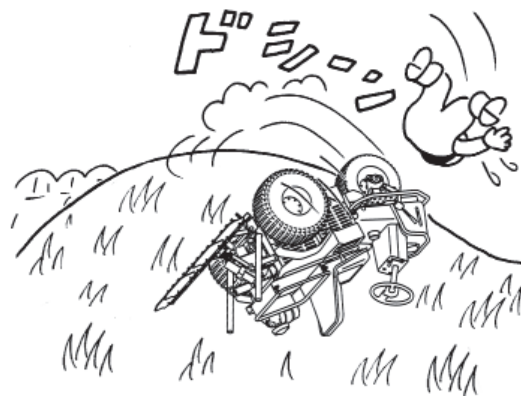


■ 移動時は路肩に注意

坂道・路肩・障害物乗越え・溝のある場所・軟弱地などでは、十分注意してスピードを落として走行してください。

【守らないと】

転倒・転落などの事故によりけがをすることがあります。



⚠ 警告

■ エンジン始動時は周囲確認

エンジン始動時は、座席にすわってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



⚠ 警告

■ 周囲に合図してゆっくりと発進

エンジン始動時は、必ず駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にし、周囲の人に合図をして座席にすわってからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



■ 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。

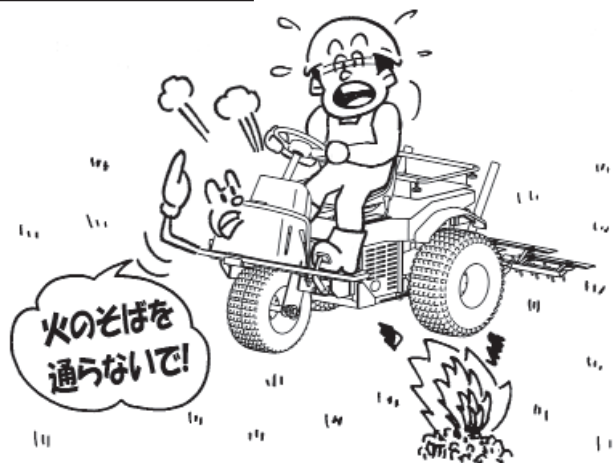


■ 燃えているゴミの上や

その近くは走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。



■ わき見運転や手放し運転禁止

【守らないと】

傷害事故の原因となります。



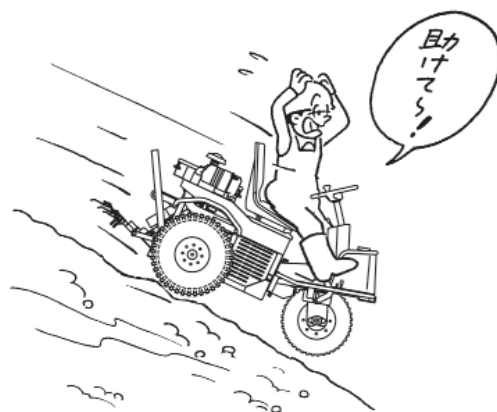
⚠ 警告

■ブレーキのまま走行禁止

ブレーキペダルを踏んだまま、または駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置のままで走行しないでください。

【守らないと】

ブレーキが効かなくなり、けがをするおそれがあります。

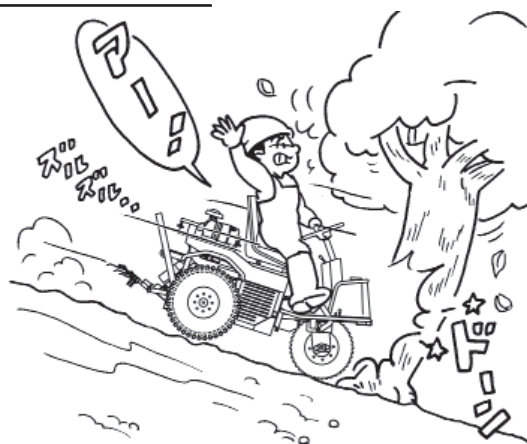


■ブレーキの使い過ぎ禁止

急な下り坂での走行は十分注意して行ってください。いつでもブレーキを掛けられる姿勢で運転してください。

【守らないと】

ブレーキが効かなくなり、事故をおこすおそれがあります。

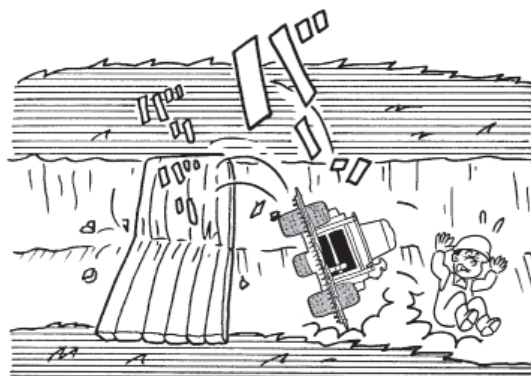


■溝を渡るときはあゆみ板を使用

作業場に入るとき、溝を渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。

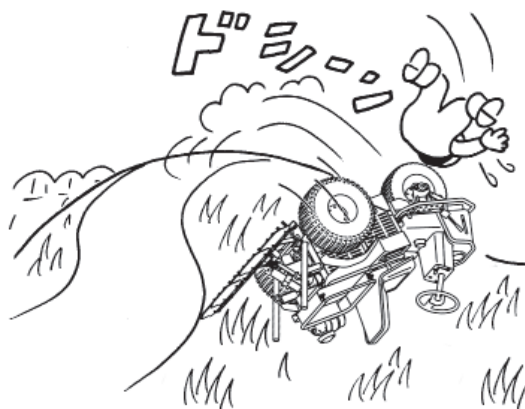


■急坂道・あゆみ板の上では変速禁止

急坂道やあゆみ板の上では、「前進」、「後進」の低い速度で走行し、途中での増減速はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。



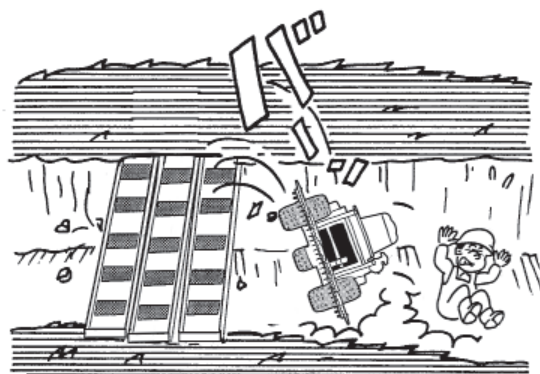
⚠ 警告

■ 坂道やあゆみ板の上では、 だ性運転禁止

坂道やあゆみ板の上での走行は、十分注意して低い速度で走行してください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、転落などの事故をまねくおそれがあります。

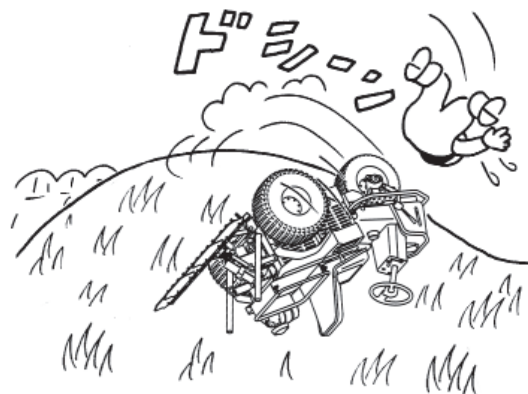


■ 急傾斜地での使用禁止

急傾斜地では横転の危険が高いので使用しないでください。

【守らないと】

死亡、または重傷を負う危険性があります。



⚠ 注意

■ 移動時はレーキを降ろした 状態で走行禁止

移動時はレーキを降ろした状態で走行しないでください。

【守らないと】

機械の破損をおこすおそれがあります。

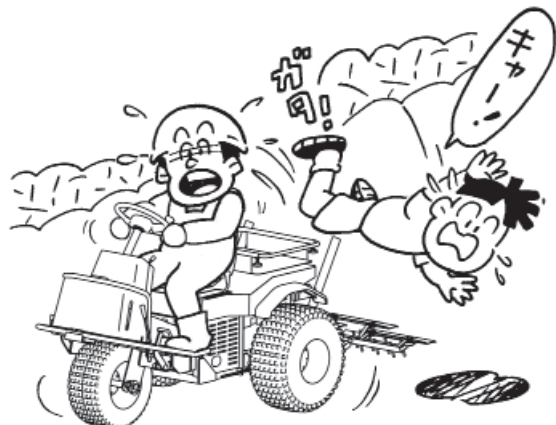


■ 運転席以外には乗らない

走行中は運転席以外に乗って運転したり、人を乗せないでください。

【守らないと】

転落などにより、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



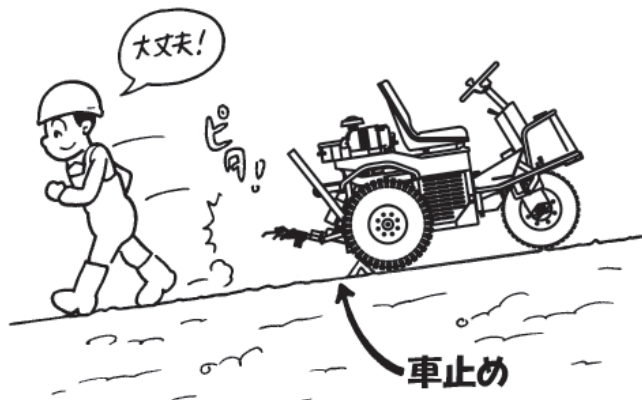
⚠ 注意

■ 機械から離れるときは平坦地に置きエンジン停止

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置きエンジンを停止し、駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。



■ バンカーの整地作業以外は使用禁止

バンカーの整地作業以外の使用や改造、積載などは決してしないでください。また、公道での走行はしないでください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。



⚠ 注意

■くわえたばこでの作業厳禁 【守らないと】

火災など、思わぬ事故の原因となります。

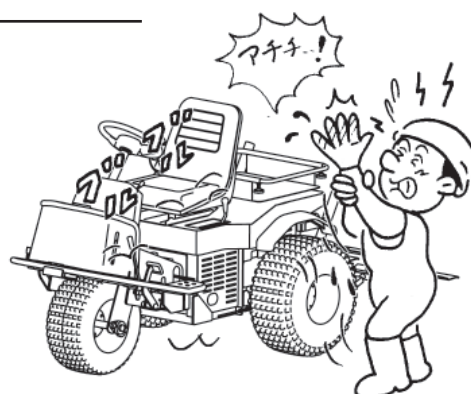


■マフラーの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラー・エンジンは高温ですので触れないでください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。



5. トラックへの積込み・積降しをするとき

⚠ 警告

■強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用

積込み・積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所に、トラックのエンジンを止め、動かないように駐車ブレーキを掛け、車止めをしてください。使用するあゆみ板は、強度・長さ・幅が十分あり、スリップしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

《あゆみ板の基準》

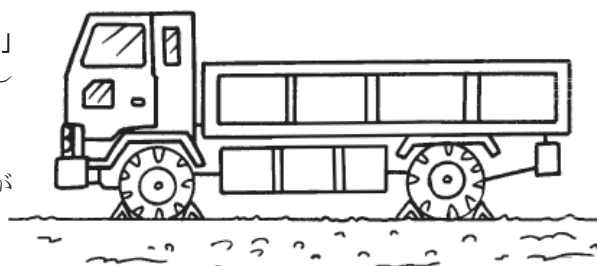
- 長さ…トラックの荷台高さの4倍以上
- 幅…本機のタイヤ幅の1.5倍以上
- 強度…本機の総重量に十分耐えられるもの（1本当たり）
- 表面…すべり止めのあるもの
- 形状…固定フックのあるもの

■トラックには必ず車止めを

積込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、サイドブレーキを掛けて車止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



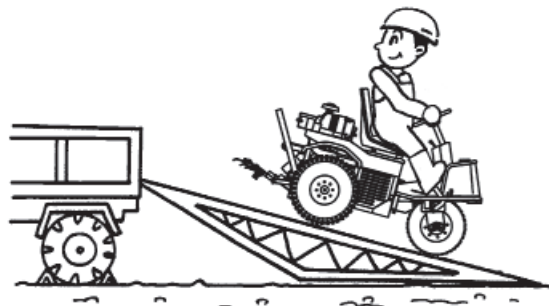
⚠ 警告

■ あゆみ板は確実に掛ける

あゆみ板をそれぞれのタイヤに合わせ、フックをトラックの荷台へ確実に掛けてください。

【守らないと】

あゆみ板が外れて本機が転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

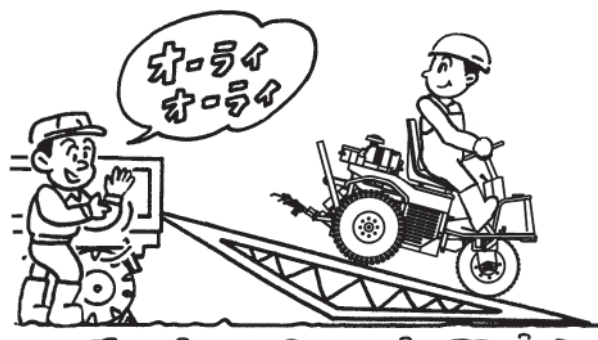


■ 積込み・積降し作業は誘導者をつけて

トラックなどからの積込み・積降し作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

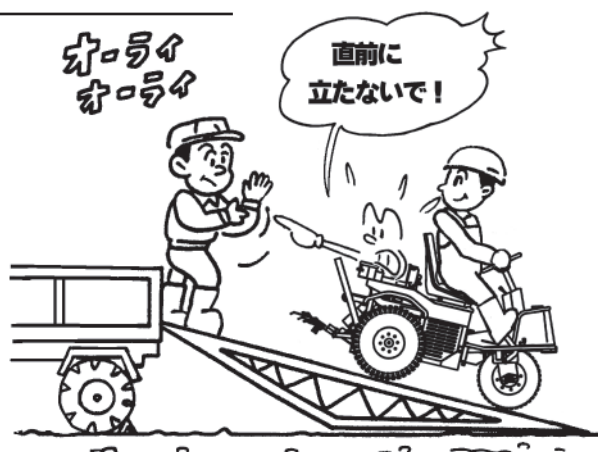


■ 積込み・積降し作業中、機械の前には絶対立たない

トラックなどからの積込み・積降し作業中は、機械の直前には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。



■ レーキを上げてあゆみ板を使用

あゆみ板を使用して積込み・積降しをするときは、本機のレーキを上げ、荷物を載せないで使用してください。

【守らないと】

バランスが崩れ、転落などの事故の原因になります。



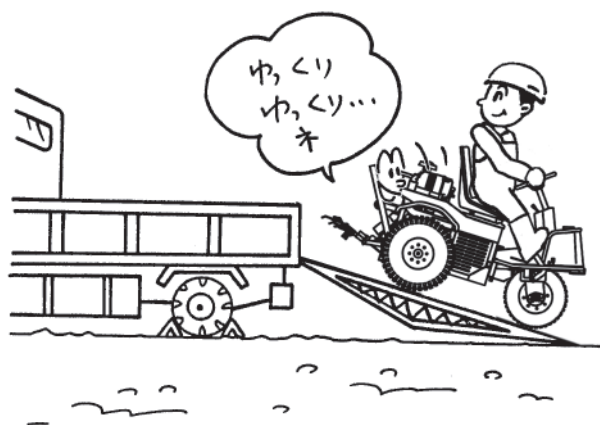
⚠ 警告

■登るときは後進、降りるときは前進でおこなう

積込みの場合「後進」、積降しの場合は「前進」の低い速度で行ってください。

【守らないと】

バランスを崩し転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

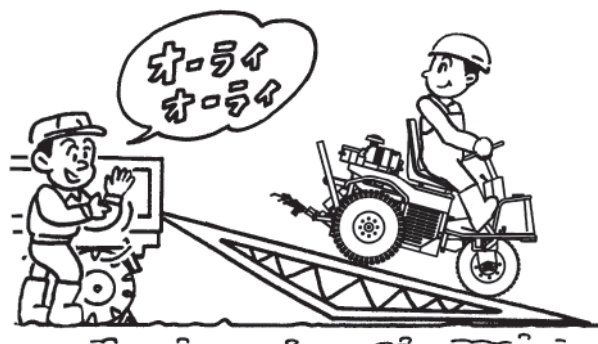


■あゆみ板の上では ハンドル操作厳禁

ハンドルをしっかり握りあゆみ板の上で進路変更をすることがないように前もって進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための、ハンドル操作は絶対にしないでください。方向を直す場合は、平坦な場所に戻ってから行ってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。



■ロープでトラックに確実に固定

トラックに載せて移動するときは、本機のエンジンを停止させ駐車ブレーキを掛け、燃料コックを「OFF（閉）」にしてから動かないように車止めをし、強度の十分あるロープでトラックに本機を確実に固定してください。

【守らないと】

トラックから本機が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。



6. 格納をするとき

⚠ 危険

■シートは機械が十分冷えてから

エンジンを停止しエンジン・マフラーなどの高温部が冷えてからシートをかけてください。長期格納時は、燃料タンク・キャブレタ内の燃料を抜取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



⚠ 警告

■長期格納時はバッテリーとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合は、バッテリーを取外し、キーを抜取り保管してください。バッテリーを取外すときは、⊖側を先に外します。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



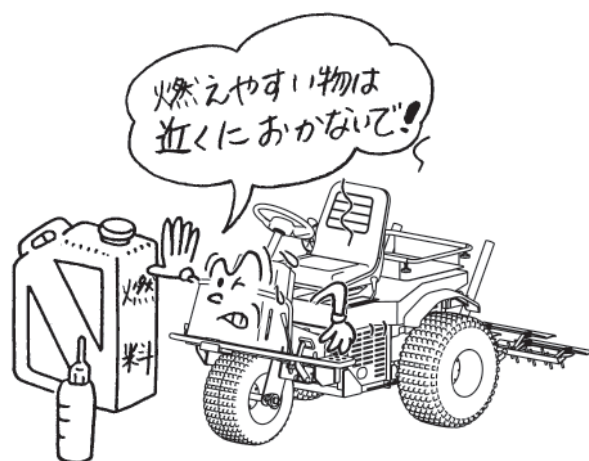
⚠ 注意

■機械の近くに可燃物を置かない

機械を格納するときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを停止してください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。近くに燃えやすい物がないか、また、燃えやすい物があれば取除いてください。

【守らないと】

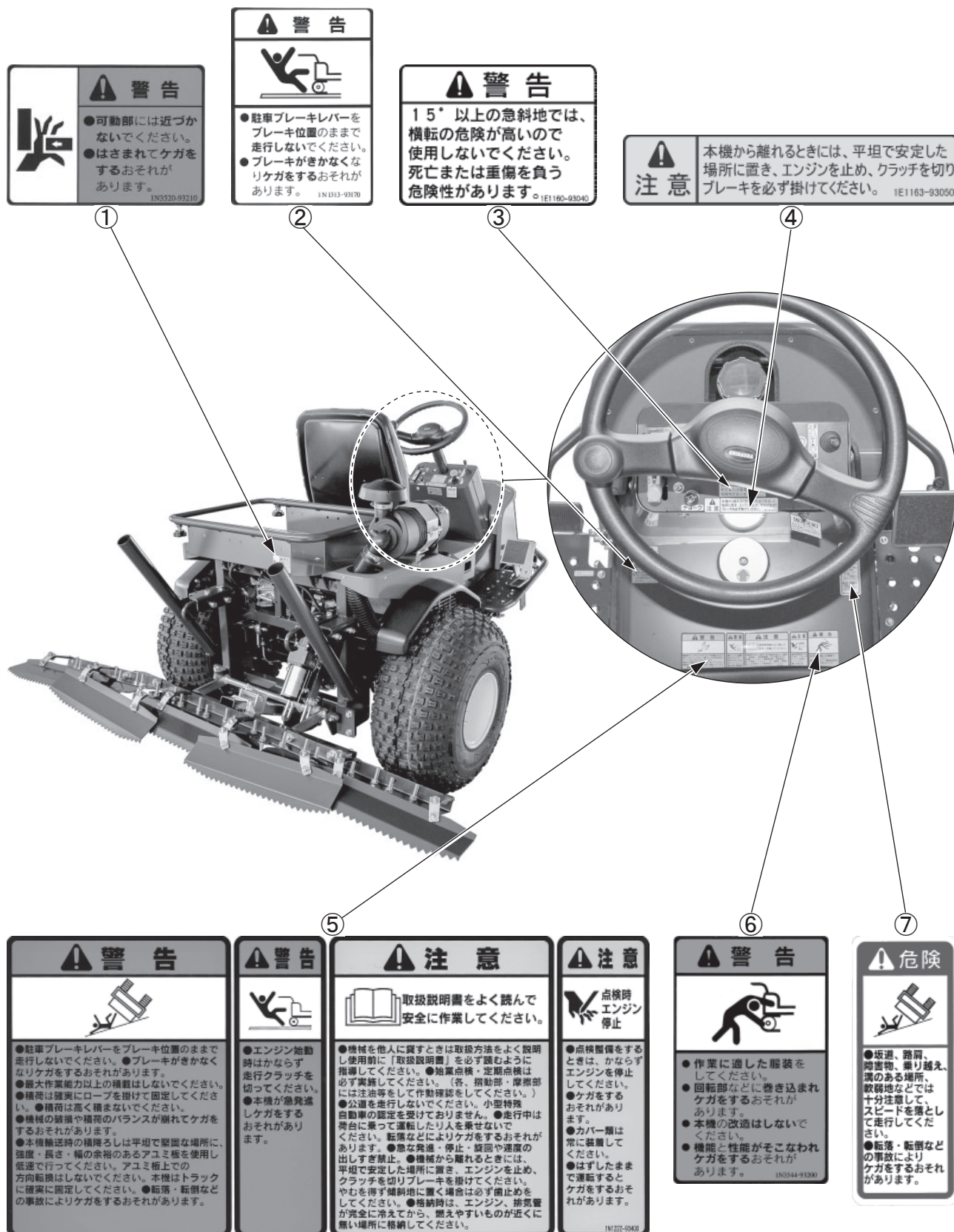
機械が動きだしたり、火災事故を引き起こすことがあります。



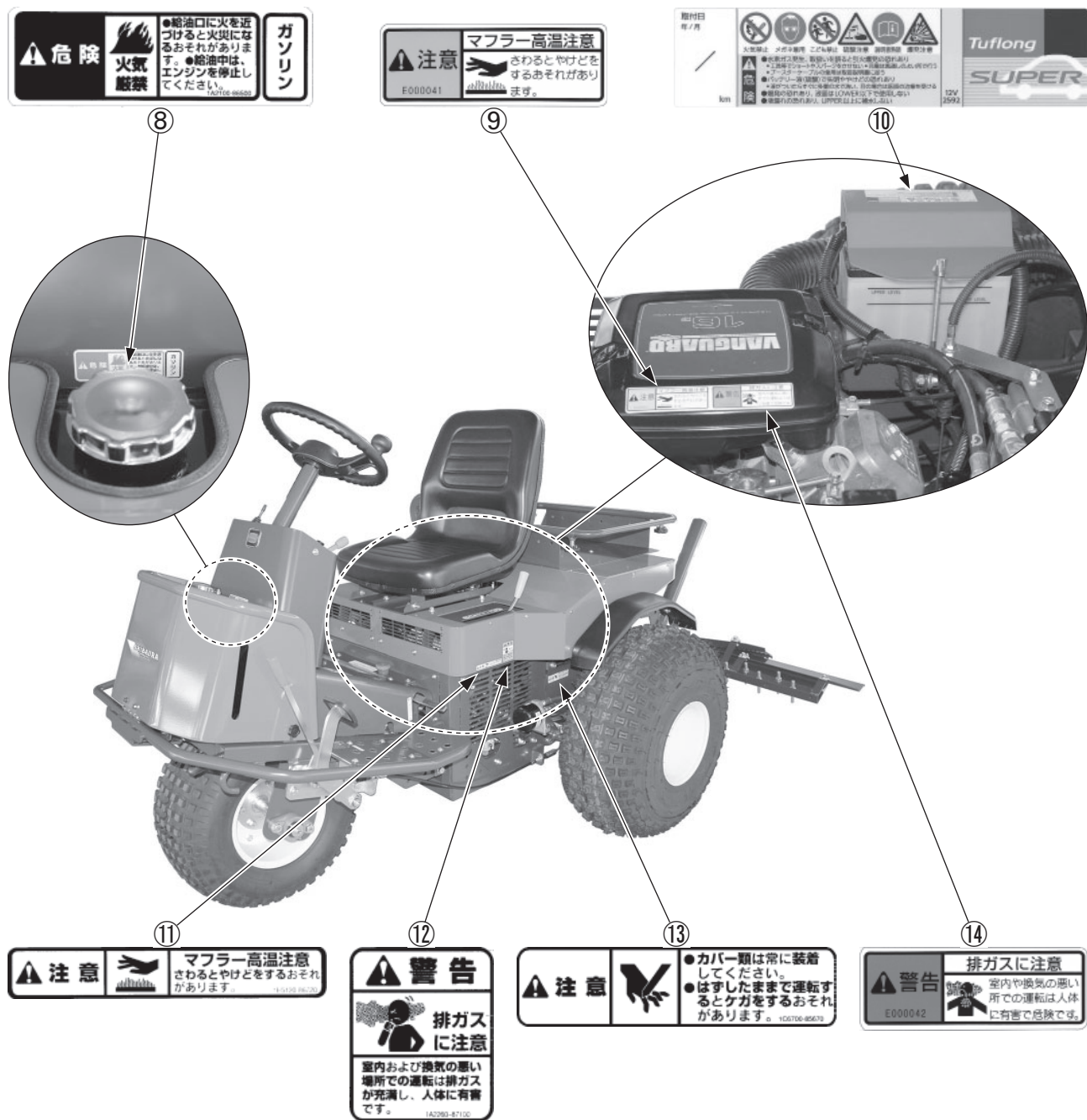
7. 安全銘板の貼付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼付け位置を示したものです。

安全銘板は常に汚れや破損がないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



1章 安全に作業をするために必ずお守りください



No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
1	1N3520-93210	警告（可動部）	8	1A2100-86500	危険（火気厳禁）
2	1N1313-93170	警告（駐車ブレーキ操作）	9	E000041	注意（マフラー）
3	1E1160-93040	警告（急斜地）	10	1N3680-51060	危険（バッテリー）
4	1E1163-93050	注意（駐停車）	11	1E5120-86720	注意（マフラー）
5	1N1222-93400	警告・注意一式（ホイール）	12	1A2260-87100	警告（排ガス）
6	1N3544-93200	警告（作業服装・改造）	13	1C6700-85670	注意（カバー装着）
7	1N3544-93170	危険（坂道・路肩）	14	E000042	警告（排ガス）

2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに点検・処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買上げいただいた販売店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合は型式と製造番号
- ご使用状況は？
(何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。



〈補修部品の供給年限について〉

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

機械の廃棄について

機械を廃棄する場合、購入された販売店もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。法律に違反する行為は絶対にしないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

3章 各部のなまえと各操作部のはたらき



●HSTペダル

走行速度の変速に使用します。前側を踏むと
前進・後側を踏むと後進します。

●レーキ昇降レバー

レーキを上下させるのに使用します。

●キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。

●アワメータ

点検・部品交換時に、この時間を目安にしま
す。

●カーゴ

荷物を乗せるときに使用します。



●レーキ

バンカーの整地作業をするときに使用します。

●チョーク

エンジンを始動するときに使用します。

1. 運転前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。
- 燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めこぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
- 燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。守らないと、火傷や火災をおこすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検、整備は、交通の危険がなく機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に車止めをした上で行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。
- マフラー・エンジン回りのゴミは取除いてください。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。

⚠ 注意

- 点検、整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。また、高温部分が十分に冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。
- 点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。守らないと機械に巻込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 感電ショック防止のため、運転中はプラグコード・点火プラグ・プラグキャップ部に触れないでください。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

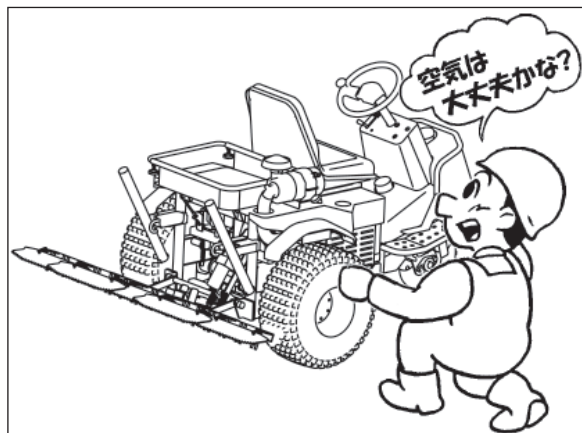
点検は次の順序で行ってください。

①前日の異常箇所

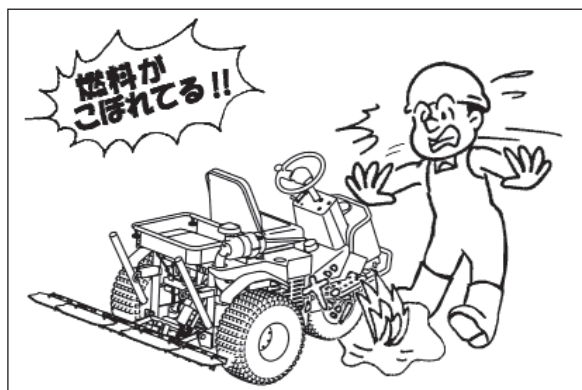
- 前日の作業中に異常を感じたところがあれば作業に支障がないか点検します。

②本機のまわりを回ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ
- ミッションオイルの油もれ ……55
- H S T オイルの油もれ ……55
- タイヤ空気圧・磨耗度合・損傷 ……63

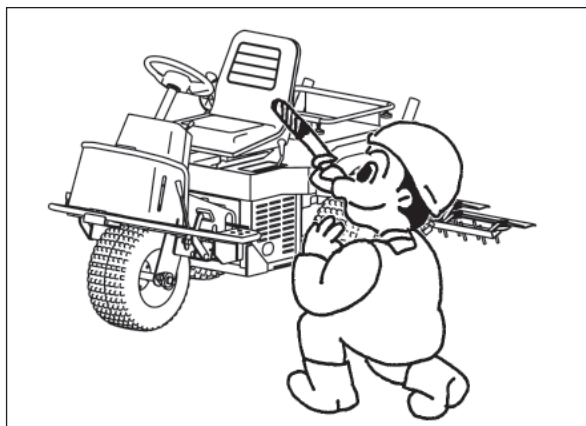


- タイヤホイール・前輪フォークなどの取付ボルト・ナットのゆるみ ……66
- レーキの損傷、ナットのゆるみ
- 機体各部の損傷、ボルトのゆるみ
- 燃料の量と燃料もれ、燃料ホースの損傷 ……30、59



③エンジンカバーを開けてみて

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ ……53



- エアクリーナの汚れ ……57
- マフラーなどの高温部分のほこりやゴミ



- マフラーの亀裂や腐食などの異常
- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ ……59

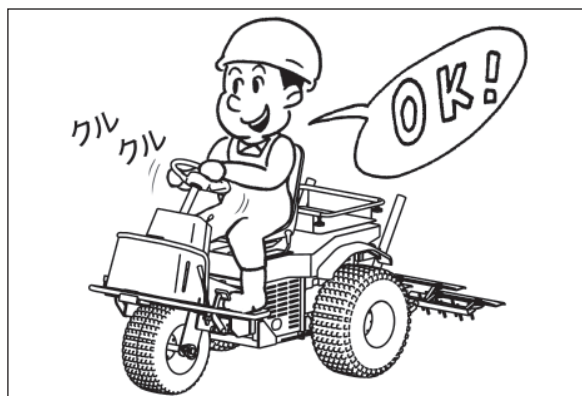
④バッテリーカバーを開けてみて

- バッテリー液の量 ……61



⑤レバーを操作してみて

- 各レバーの遊び量、作動状態 ……64 ~ 65



⑥エンジンを始動してみて

- エンジン始動後の異音
- 排気ガスの色



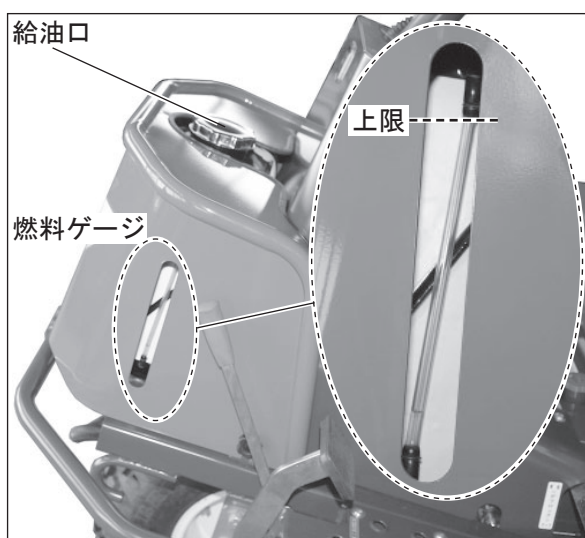
2. 燃料の点検・ 給油のしかた

⚠ 危険

- 燃料はひかえめに入れてください。機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれることがあります。万一、引火した場合、火災のおそれがあります。

点検・給油

- ①燃料タンク側面の燃料ゲージで燃料の残量を確認し、不足している場合は、上部の給油口から補給してください。



- ②給油は「自動車用無鉛ガソリン」を給油口より、燃料ゲージ上限よりやや控えめに入れてください。
- ③燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めてください。

【重要】

- 給油口を開けるときは、エンジンを切ってから、少なくとも2分間は冷却させてください。
- ガソリンはポリタンクで保管しないでください。樹脂成分の溶解・紫外線透過により変質しやすくキャブレタ部品の穴詰まりなどのトラブルの原因となります。ガソリンを保管する場合は、ガソリン専用の鋼製燃料タンクで保管してください。
- ガソリンは常に新しいものを使ってください。購入後、1ヶ月以上経過したガソリンの使用はキャブレタ部に粘着物が付着する原因となり、運転不調をおこすおそれがあります。

3. エンジンの始動・ 停止のしかた

⚠ 警告

- エンジン始動時は、駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にして、周囲の安全を確認し、人や動物を近づけないでください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 閉切った室内では、エンジンの始動および暖機運転はしないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。
- マフラーやエアクリーナカバーを外したままエンジンを運転しないでください。守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

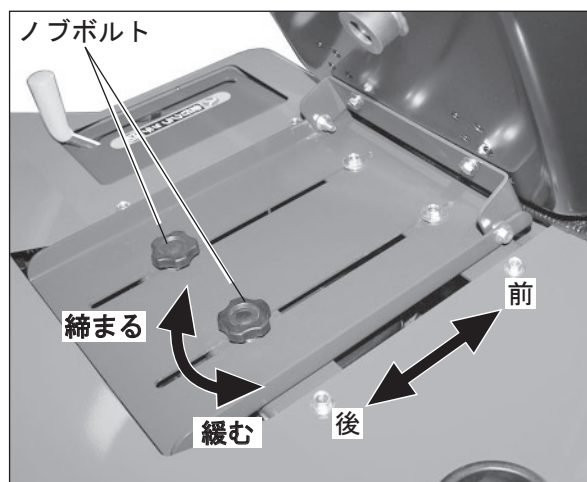
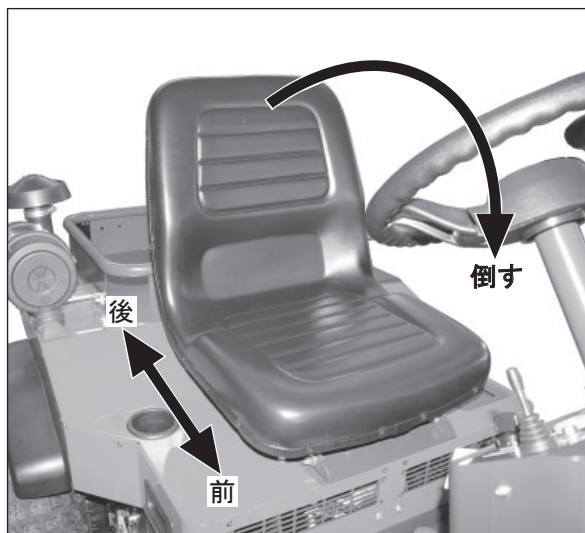
⚠ 注意

- 機械を使う前と後には、必ず点検、整備をしてください。駐車ブレーキレバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 暖機運転中は、駐車ブレーキを掛けてください。守らないと、何らかの原因で本機が走りだし事故をおこすおそれがあります。
- 運転中、エンジン、マフラーは高温になりますので触らないでください。また、エンジンが停止しても、すぐに手を触れないでください。エンジンやマフラーなどの高温部で火傷のおそれがあります。
- エンジン停止状態で長時間、キースイッチを「入」位置にしないでください。アワメータが作動し、バッテリーの放電の原因になります。

座席の合わせかた

座席の位置

座席を前に倒して、ノブボルトを緩めると座席が前後にスライドします。希望の位置に合わせてノブボルトを確実に締付けてください。



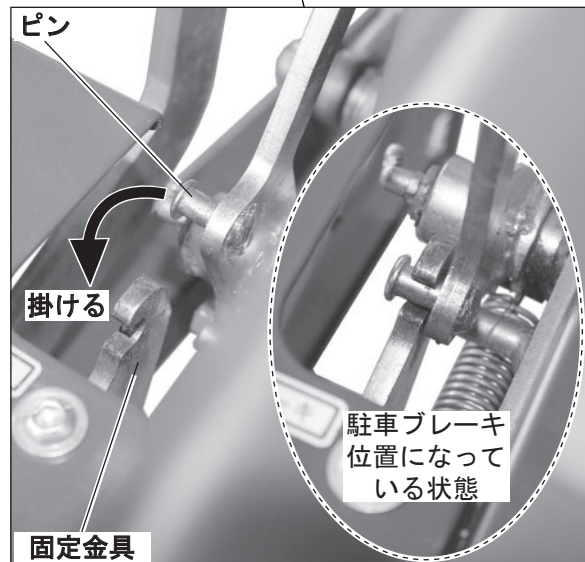
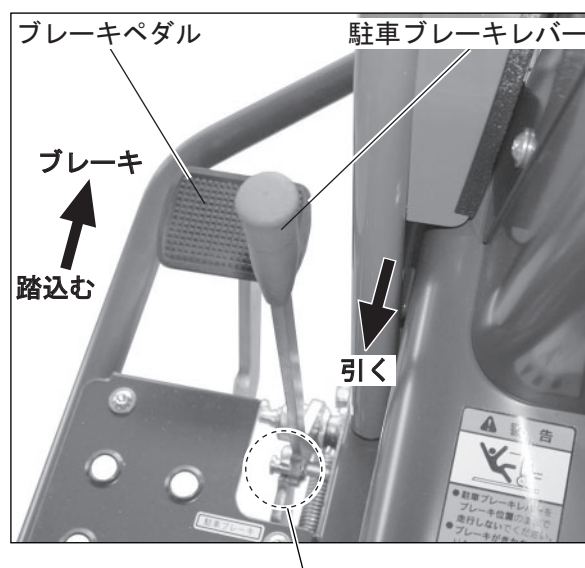
※必ず、座席が固定されたことを確認してください。

エンジンの始動のしかた

①燃料コックを「ON（開）」にします。

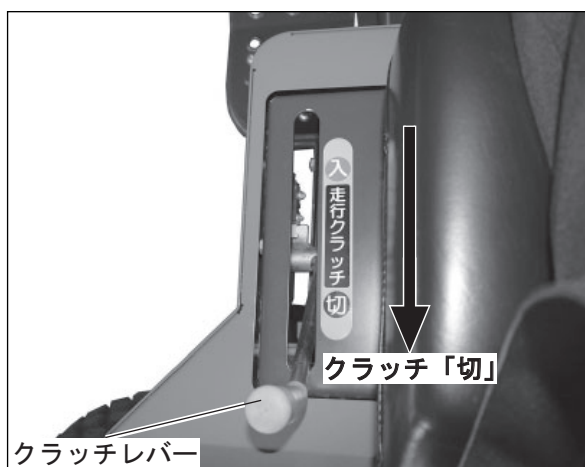


②ブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキレバーを引き、ブレーキペダルの固定金具に駐車ブレーキレバーの根元にあるピンを掛けて「駐車ブレーキ」位置にします。



4章 運転と作業のしかた－安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

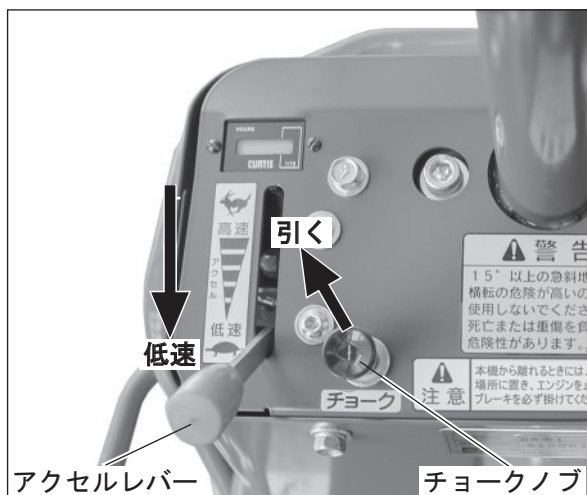
- ③クラッチレバーを「切」位置にしてクラッチを切ります。



※クラッチレバーは、必ず「切」位置にしてください。始動安全スイッチが働き、セルモータが回りません。確実に切れている事を確認してからエンジンをスタートしてください。

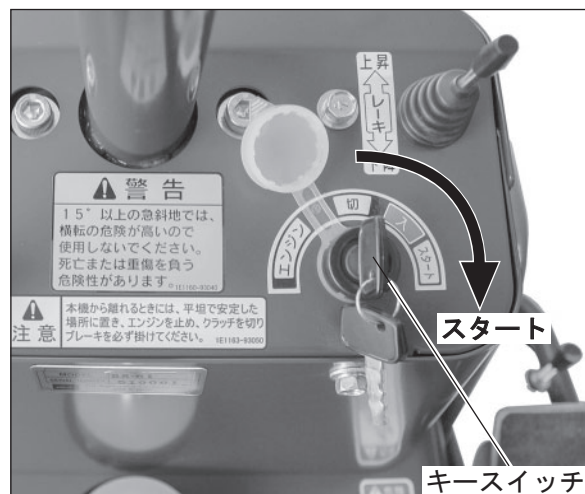
- ④アクセルレバーを「低速」位置にします。

- ⑤チョークノブを引きます。



※エンジンが暖まっているときはチョークノブを引かないでください。

- ⑥キースイッチを「スタート」位置まで回します。



- ⑦エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークノブを徐々に元に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

※エンジン始動後は、約5分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。（エンジンの暖機運転）

【重要】

- 約5秒以上セルモータを使ってもエンジンがかからない場合、いったんキースイッチを切り、1分間以上バッテリーを休ませてから、再び始動させてください。

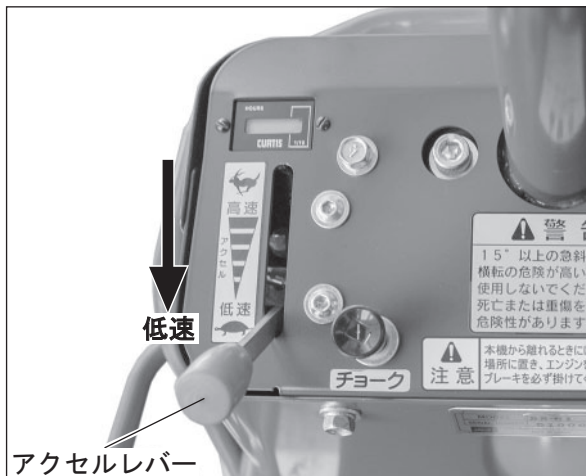
- 冬期など外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンティング（回転ムラ）をおこす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを高速側と低速側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「スタート」位置にしないでください。

※HSTペダルは「中立」にして駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。突然発進して危険です。

エンジンの停止のしかた

- ①アクセルレバーを「低速」位置にして、エンジンを停止します。



- ②キースイッチを「切」位置にします。



- ③燃料コックを「OFF (閉)」にします。



4. 発進・旋回・変速・停止のしかた

⚠ 危険

- 発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回するときは、十分にスピードを落としてください。また坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。
- 急傾斜地での斜め走行はしないでください。横転して事故をまねくおそれがあります。
- 後進時は、低速にし、後方に十分注意してください。転倒などにより、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

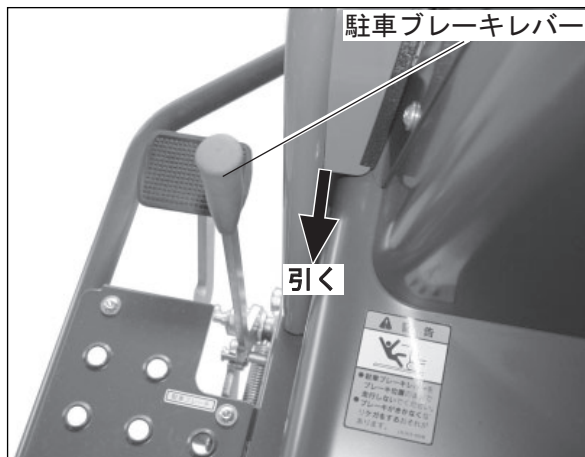
- 発進するときは、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。思わぬ事故、けがをまねくおそれがあります。
- 本機を使用しないときは、必ずキーを抜いて安全な場所に保管してください。守らないと、児童などが操作して事故をおこすおそれがあります。
- 走行中は駐車ブレーキレバー、またはブレーキペダルを「ブレーキ」位置に連続して入れないでください。ブレーキが磨耗して、効かなくなり、暴走して大変危険です。

⚠ 注意

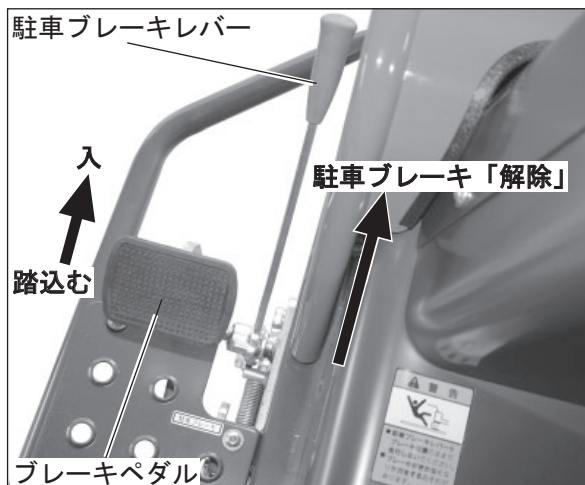
- 小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。
- 本機から離れるときは、平坦で堅固な安定した場所に置き、必ず駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にして、エンジンを止め、車止めをしてください。守らないと本機が動きだし事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

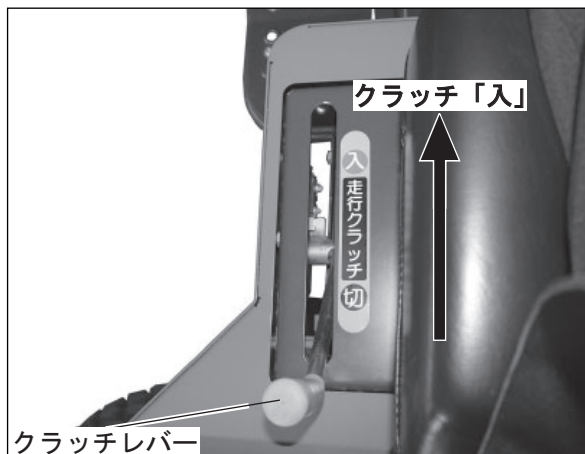
- ① 駐車ブレーキレバーが「ブレーキ」位置にあることを確認してください。(P 31 参照)



- ② ブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキレバーのピンを外して「解除」位置にします。

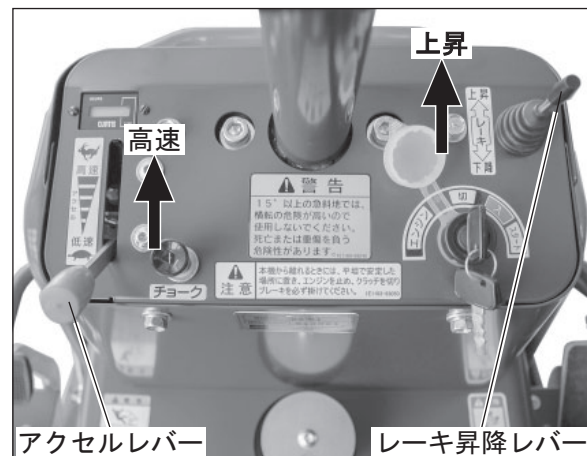


- ③ クラッチレバーを「入」位置にします。



- ④ アクセルレバーを「高速」位置にして、エンジンの回転を上げます。

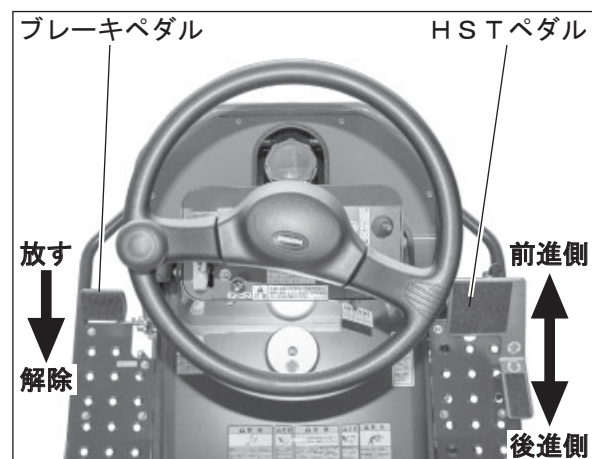
- ⑤ レーキ昇降レバーを「上昇」位置に操作して、レーキを上げます。



【重要】

- 移動時にレーキを降ろした状態で走行すると、本機が破損するおそれがあります。

- ⑥ ブレーキペダルを放して、HSTペダル前進側・後進側のどちらか希望の方向のペダルを徐々に踏込んで、ゆっくり発進します。



※加速・減速するときは、HSTペダルをゆっくり操作してください。

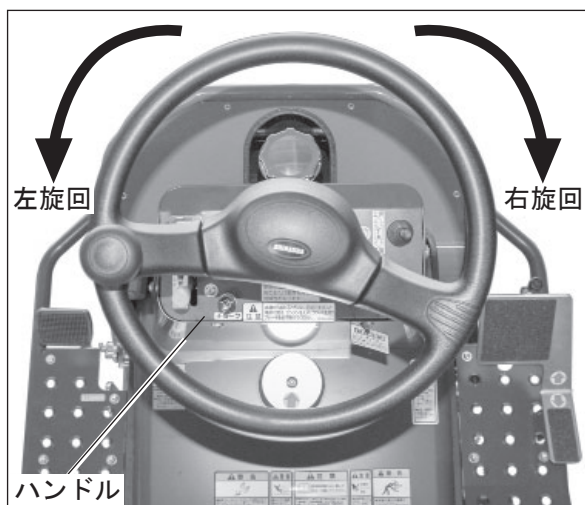
※HSTペダルは足を放すと戻りますが、アクセルレバーは手で戻さないで戻りません。

旋回のしかた

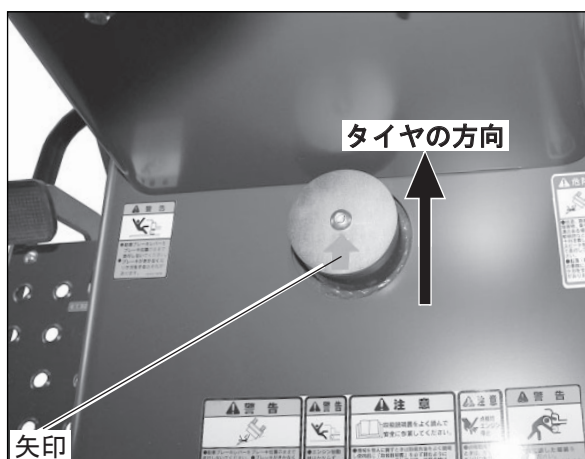
⚠ 警告

- 旋回するときは、必ずHSTペダルを低速側に戻してスピードをおとし、安全を確認してから、ハンドル操作をしてください。

左に旋回するときは、ハンドルを左側に操作し、右に旋回するときは、右にハンドルを操作してください。

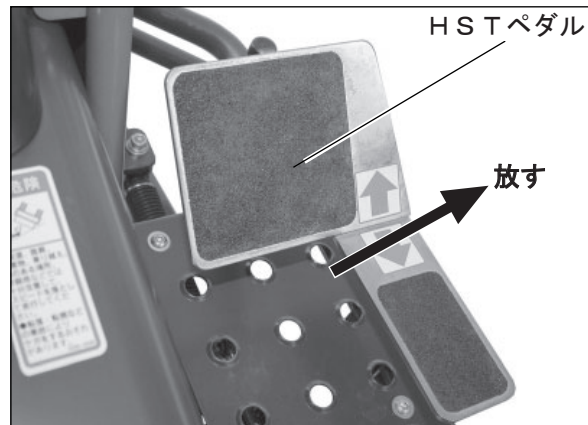


※前輪タイヤの方向を、ハンドル下の矢印で確認できます。

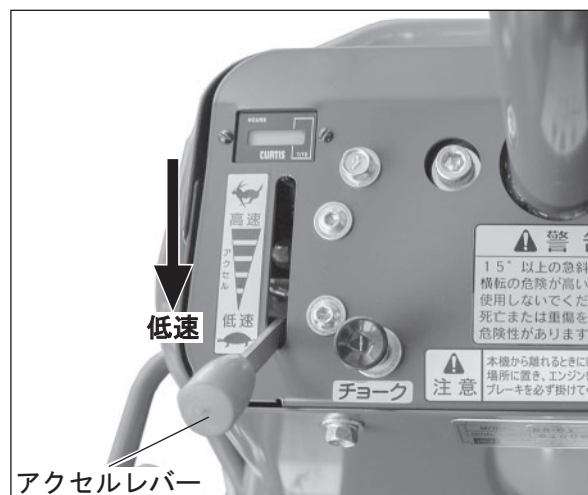


停止のしかた

- ① HSTペダルを放してスピードを落とします。

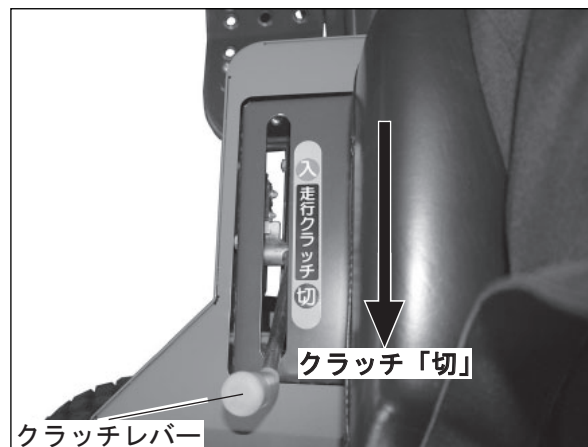


- ② アクセルレバーを「低速」位置に戻します。



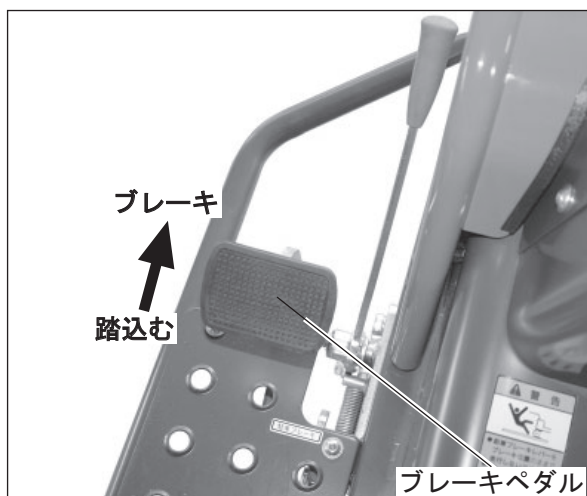
※HSTペダルは足を放すと戻りますが、アクセルレバーは手で戻さないと戻りません。

- ③ クラッチレバーを「切」位置にしてクラッチを切ります。

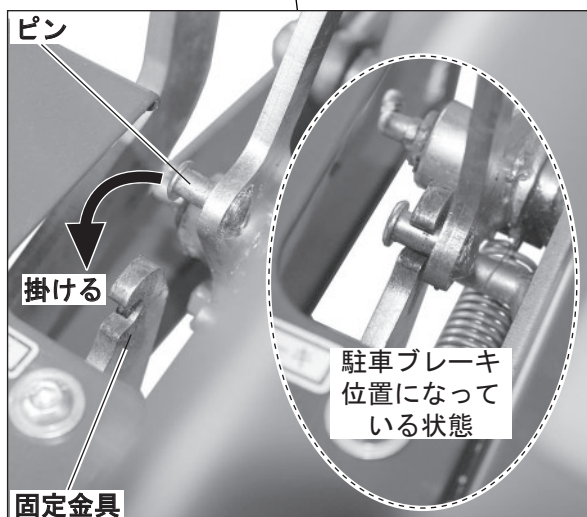
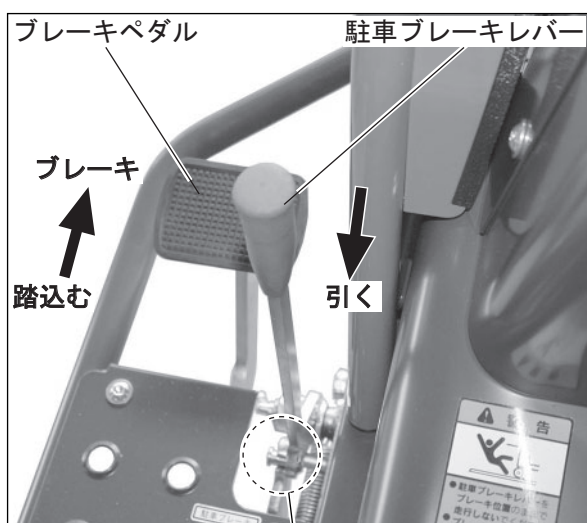


4章 運転と作業のしかた－安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

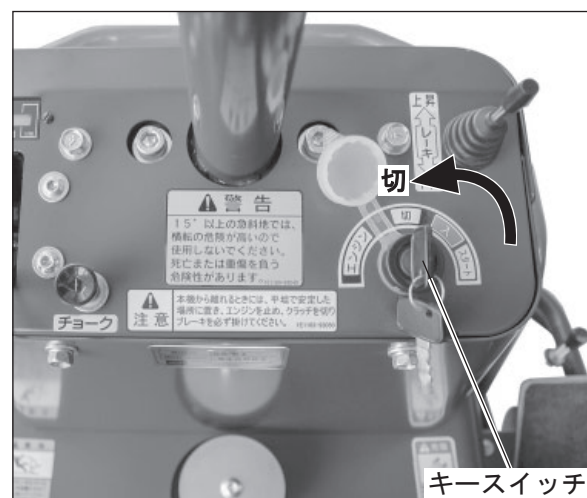
- ④ブレーキペダルを踏込んでブレーキを掛けて停止します。



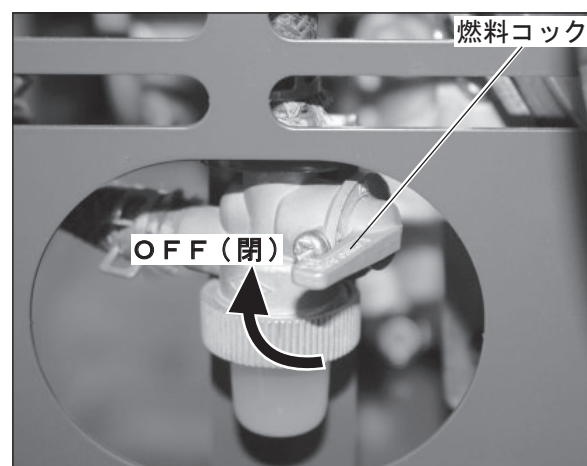
- ⑤ブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキレバーを引き、ブレーキペダルの固定金具に駐車ブレーキレバーの根元にあるピンを掛けて「駐車ブレーキ」位置にします。



- ⑥キースイッチを「切」位置にします。



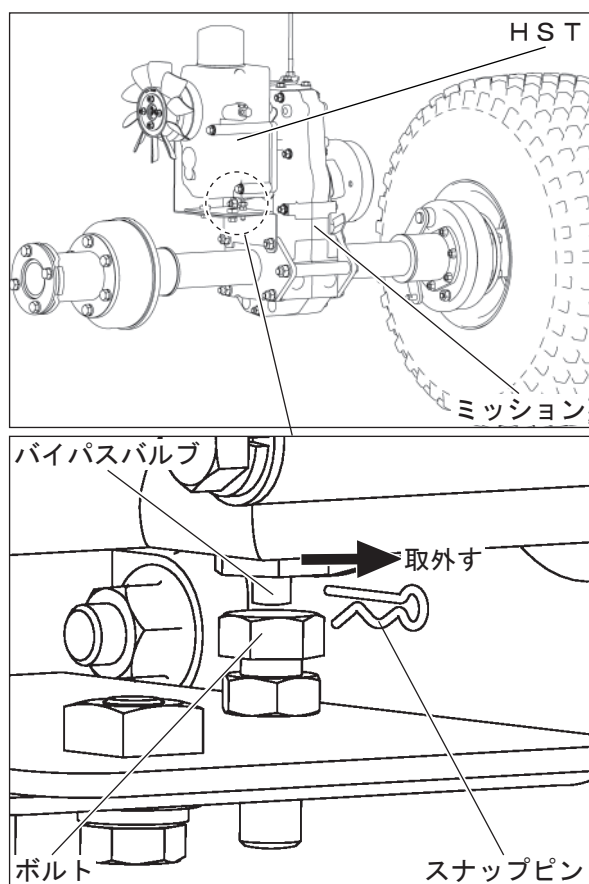
- ⑦燃料コックを「OFF（閉）」にします。



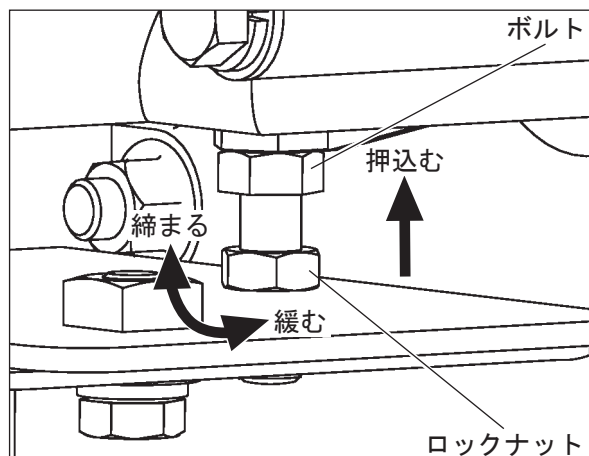
機体が動かなくなった場合

故障やエンジントラブル等で走行できなくなった場合、次の要領で本製品を動かしてください。

- ① H S T 下部のバイパスバルブに差込まれているスナップピンを除外します。



- ② バイパスバルブの下にある下部ボルトのロックナットを緩めてボルトを上げて、バイパスバルブを押込みます。(圧力が抜けて本製品を牽引することができます。)



- ③ 牽引して本製品を動かしてください。

- ④ 修理後は、下部ボルトを元の位置まで戻しロックナットを締めて固定し、エンジンを始動します。H S T 内に圧力が発生するとバイパスバルブが出てきますので、必ずスナップピンを元通りに確実に取付けてください。

【重要】

- 緊急時以外は、スナップピンを抜かないでください。特に傾斜地では絶対にスナップピンを抜かないでください。抜いたまま動かすと事故をおこすおそれがあります。

駐車のかた

⚠ 注意

- 駐車するときは、平坦で堅固な場所に必ず駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にして止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

5. 作業のしかた

⚠ 警告

- 急傾斜地では使用しないでください。死亡、または重傷を負う危険性があります。

⚠ 注意

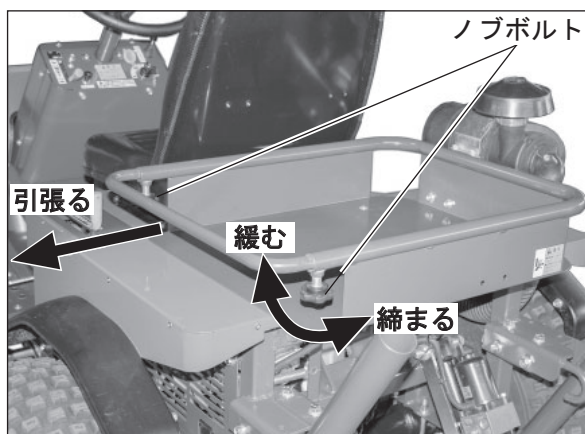
- 走行中は、運転者以外の人を乗せたり、荷物を載せたりしないでください。転落などにより、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

カーゴの調節のしかた

⚠ 警告

- カーゴのノブボルトを確実に締付けてください。ノブボルトが外れると荷崩れをおこし転倒・転落により傷害のおそれがあります。

ノブボルトを緩めるとフレームがスライドします。希望の位置まで引張り、ノブボルトを確実に締付けてください。



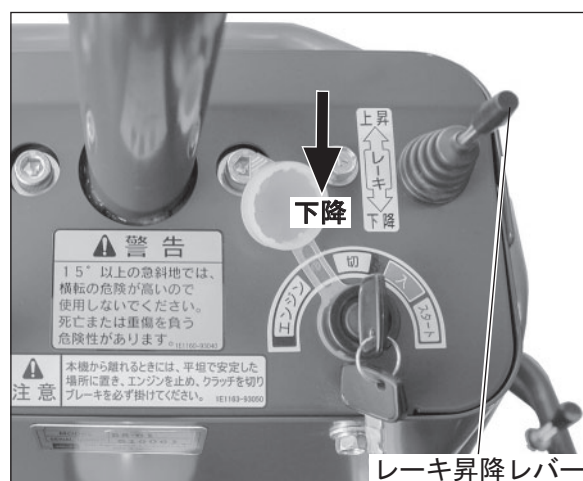
バンカーの整地作業のしかた

⚠ 警告

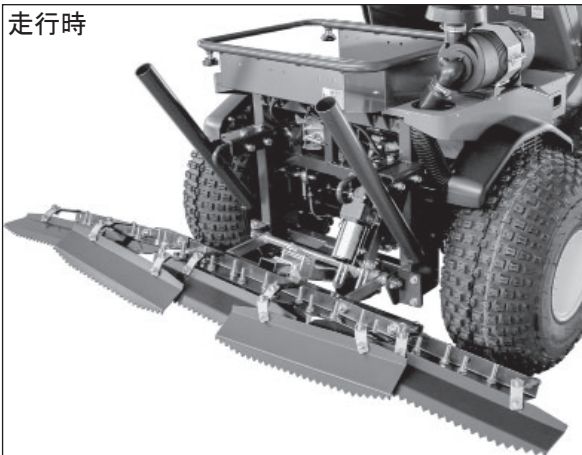
- 傾斜地では、低速で作業をしてください。守らないと転倒のおそれがあります。
- 最低地上高が低いため、凸凹に注意して作業をしてください。
- 下り坂では、エンジン回転を落としてエンジンブレーキを利用し、低速で走行してください。
- 整地作業をはじめるときは、レーキが下がりきるまでレーキ昇降レバーを「下降」位置に操作してください。
- レーキは定期的に掃除をしてください。
- レーキの調整を行う際は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 整地作業に入る前に作業区域を確認をし、付近に傾斜地や崖など、危険な場所がある場合は、作業前に境界表示を行い、安全区域内で作業をし、暴走・転落に十分注意してください。

整地作業の操作は、次の要領で行ってください。

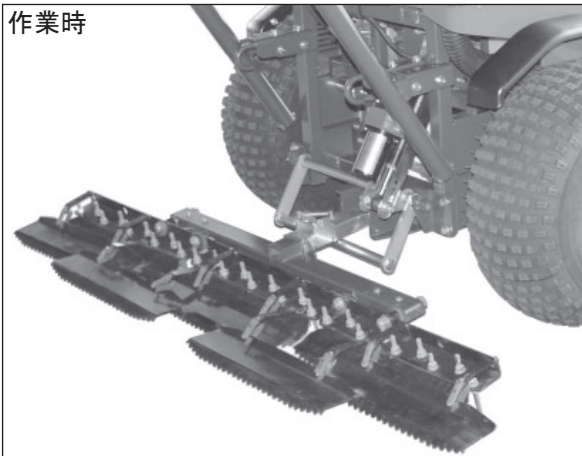
- ① 平らな場所でレーキ昇降レバーを「下降」位置へ操作し、レーキを下げてください。



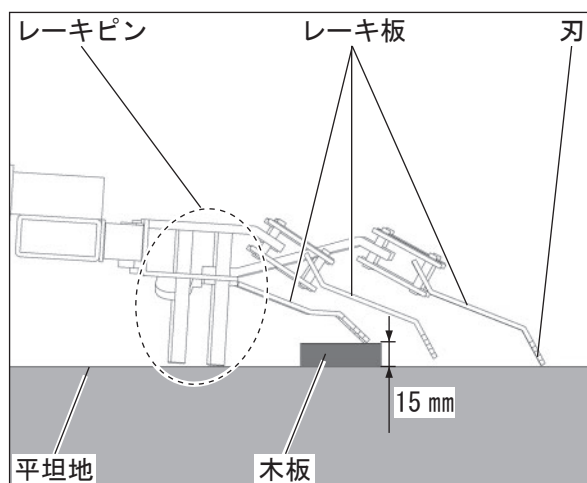
走行時



作業時

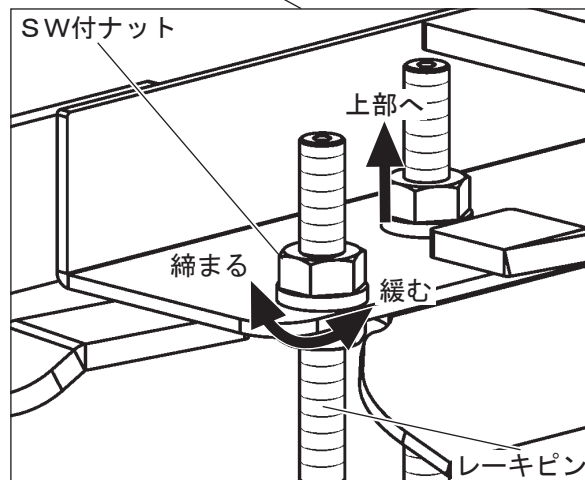
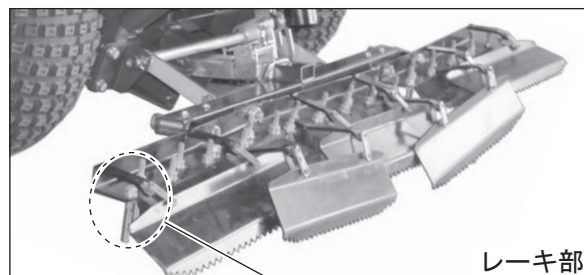


- ② 200 mm程度ゆっくり前進し、レーキ板の下に厚さ 15 mm程度の木板を入れてください。

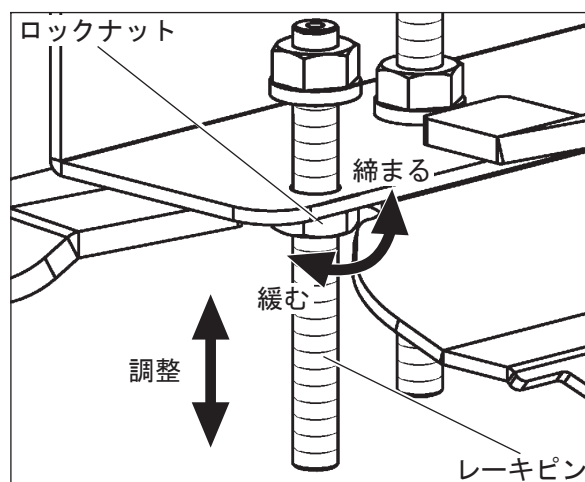


- ③ 木板にレーキの荷重がかかり、レーキ板の刃の先端が地面と軽く接触する位置にあるとき、レーキピンが地表に接しているか確認してください。摩耗などにより適正な位置になかった場合、レーキ昇降レバーを「上昇」位置へ操作し、レーキを上げてエンジンを停止し、レーキピンのナットで調整します。

- ④ SW付ナットを緩めて、レーキピンの上部まで持っていきます。



- ⑤ ロックナットをスパナなどで固定したままレーキピンを回して、地面と軽く接触する位置になるよう調整します。



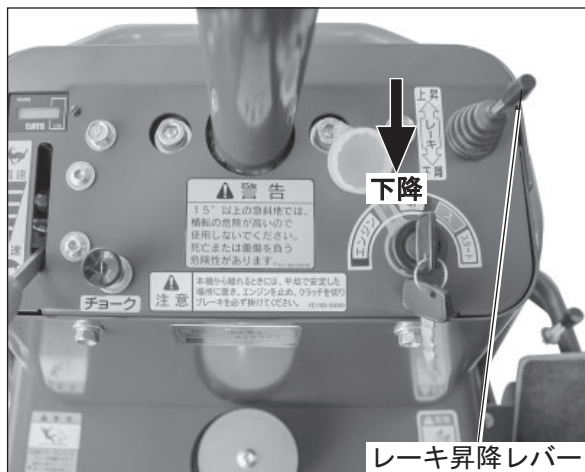
- ⑥ ロックナットとSW付ナットをしっかりと締付けて固定します。

※ 25本全て調整してください。

4章 運転と作業のしかたー安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

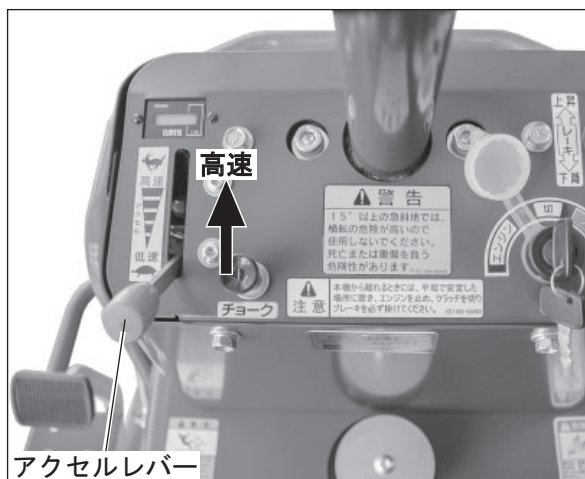
⑦エンジンを始動して、本機をバンカーに移動させ、駐車ブレーキレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にします。(P 31 参照)

⑧レーキ昇降レバーを「**下降**」位置へ操作し、レーキを下がりきるまで降ろします。



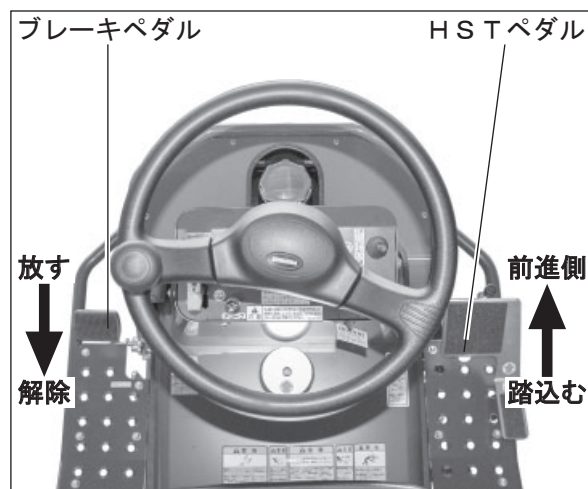
⑨ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーを「**解除**」位置にします。(P 34 参照)

⑩アクセルレバーを「**高速**」位置にします。



※安全な速度で作業を行ってください。

⑪ブレーキペダルを放して、HSTペダル前進側の方向のペダルを徐々に踏込んで、ゆっくり発進し、整地作業を行います。



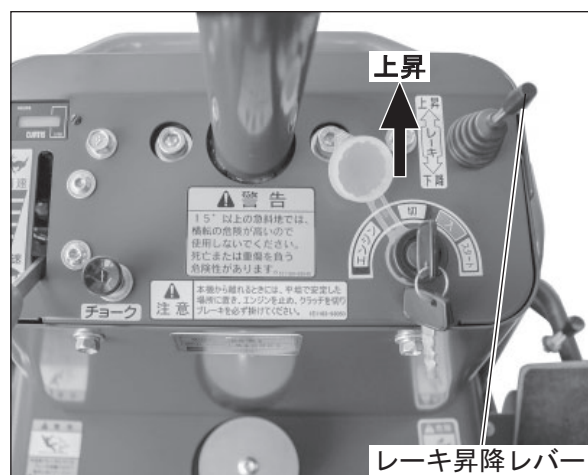
※加速・減速するときは、HSTペダルをゆっくり操作してください。

※HSTペダルは足を放すと戻りますが、アクセルレバーは手で戻さないと戻りません。

【重要】

●レーキを降ろした状態で後進すると、本機が破損するおそれがあります。

⑫整地作業が終了したら、レーキ昇降レバーを「**上昇**」位置に操作し、レーキを上げてからバンカーから出ます。



【重要】

●整地作業以外は、レーキ昇降レバーを操作して一番上にしてください。特に移動時はレーキを上げて走行してください。

※仕上げブラシ（オプション）を取付て作業もできます。(P 75 参照)

6. デフロックペダルの 使いかた

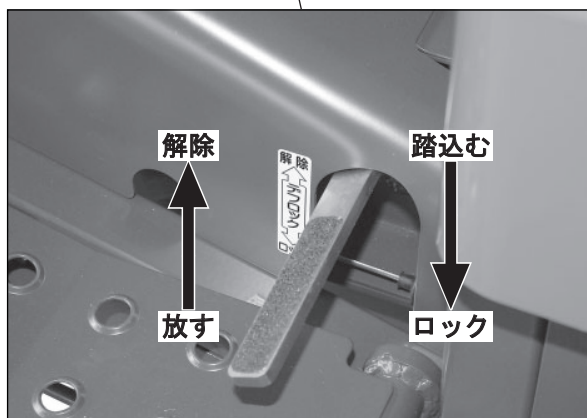
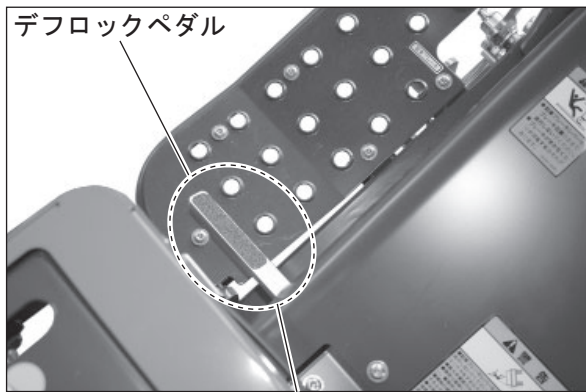
⚠ 警告

- 通常の旋回するときは、必ずデフロックペダルを足から放して「解除」位置にし、戻ったことを確認してから旋回してください。守らないと、思うように旋回できずに事故をおこしたり、ミッションが破損するおそれがあります。
- 通常の走行中は、絶対にデフロックを使用しないでください。守らないと走行は不安定になり事故をおこしたり、ミッションが破損するおそれがあります。

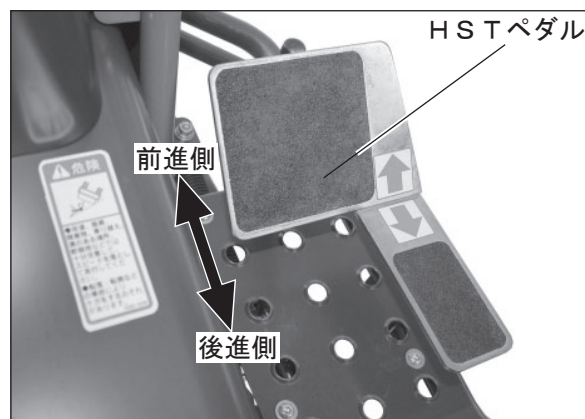
バンカーからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときにデフロックを使用すると効果があります。

① 本機を停止させます。

② デフロックペダルを踏込み「ロック」位置にします。（差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。）



③ HSTペダルを「前進側」か「後進側」にしてゆっくり発進し、バンカーなどから脱出します。脱出したらデフロックペダルから足を放し「解除」位置にします。



[重要]

- デフロックペダルを「ロック」位置にするときは、エンジン回転を下げってから行ってください。
- デフロック使用するときは、ハンドルを切らないようにしてください。ミッションが破損する恐れがあります。

7. 坂道での運転のしかた

警告

- 坂道では、スピードに十分注意して、必ず「低速」で走行してください。
 - 坂道では駐車をしないでください。守らないと本機が坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。
 - 上り坂で発進する場合は、アクセルレバーを「低速」位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくり発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。
 - 坂の途中では、クラッチレバーを「切」位置にしないでください。本機がすべり落ちて大変危険です。
-

8. 作業場への出入りのしかた

警告

- 作業場への出入りや段差を乗り越えるときは、レーキを上げて、ゆっくり走行してください。
 - 急な傾斜を登るときは、「前進」で、降りる場合は「後進」の低い速度で行ってください。
-

[重要]

- 作業場への出入りは、作業場にたいして直角に出入りしてください。

9. トラックへの積込み・積降しのしかた

⚠ 警告

- 積込み、積降しの場所は、交通の安全が確保でき、平坦で安定した場所を選んでください。思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。
- トラックはエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け、「車止め」をしてください。
- 使用するあゆみ板は、幅、長さ、強度が十分あるスリップしないものを選び、あゆみ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかり掛けてください。
- レーキを上まで一杯上げて、荷物は積まないでください。
- 誘導者は、機械の直前に立たないでください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。
- トラックへの積込み、積降しは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるためのハンドル操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故をおこすおそれがあります。
- 積込みは「後進」、積降しは「前進」でゆっくりと行ってください。守らないと転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。
- 本機があゆみ板とトラックなどの継目を越えるときには、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。
- トラックなどに積んで移動するときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに「車止め」をしてください。守らないと、機械の転落や、運転席への突込みによる重大な事故やけがをまねくおそれがあります。

① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。

② 基準に合ったあゆみ板を用意します。

《あゆみ板の基準》

あゆみ板は、基準にあった十分強度のあるものをご使用ください。

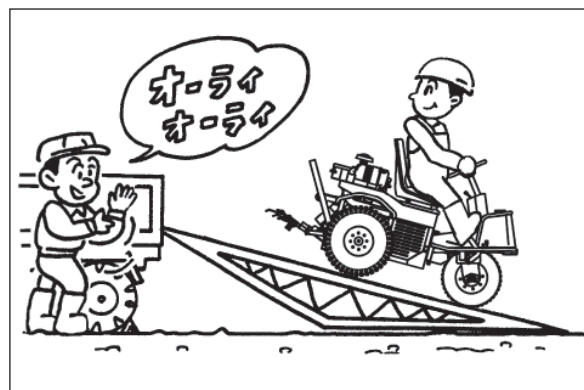
- 長さ…トラックの荷台高さの4倍以上
- 幅…本機のタイヤ幅の1.5倍以上
- 強度…本機の総重量に十分耐えられるもの
(1本当たり)
- 表面…すべり止めのあるもの
- 形状…固定フックのあるもの

③ あゆみ板のフックを、トラック荷台と段差のないように確実に掛けてください。

④ 3本のタイヤがあゆみ板の中央に位置するように、本機をセットしてから積込み、積降しを行ってください。

⑤ 積込みの場合は「後進」で、積降しの場合は「前進」の低い速度で行ってください。

⑥ 積込み中、途中でエンジンがストップした場合は、いったん下まで降りてエンジンを再スタートしてください。



⚠ 危険

- 燃料を抜くときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。エンジンを止め、エンジン、マフラーなどの高温部が冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。
 - シートを掛ける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してから掛けてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。
-

⚠ 警告

- お手入れは、平坦な安定した場所で行ってください。守らないと機械が転倒して、思わぬけがをするおそれがあります。
 - 格納時は平坦で安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず「車止め」をしてください。本機が自然に動いて事故になります。
-

⚠ 注意

- お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が十分に冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。
 - 近くに燃えやすいものがあれば取除いてください。火災の原因になります。
-

1. 作業後の手入れ

その日の内に水洗いをし、水洗い後はよく水分をふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷり差してください。

⚠ 警告

- エンジン・マフラーなどのゴミ、草などは必ず取除いてください。そのまま運転しますと、火災の原因になることがあります。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。
-

[重要]

- 水洗いをするときは、エンジンおよびマフラー部などの高温部には水をかけないでください。また、エアクリーナの吸気口に水が入らないようにしてください。
 - 電装品には水を掛けないようにしてください。故障の原因となります。
-

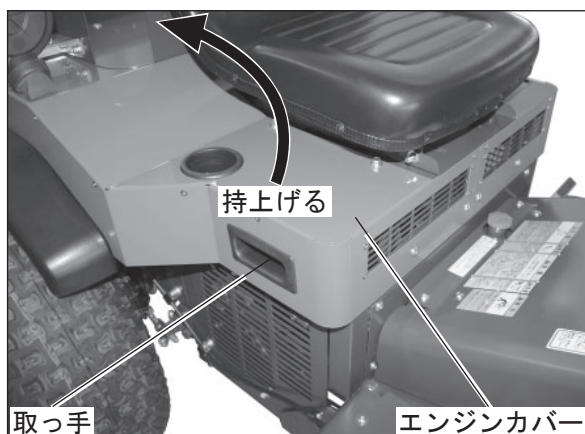
2. エンジンカバーの開けかた

⚠ 注意

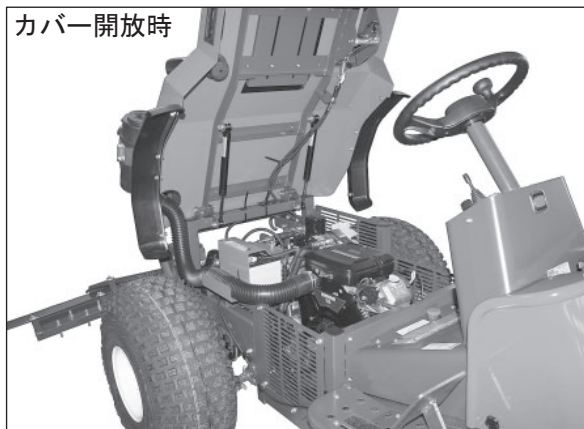
- エンジンカバーを開けるときは、エンジンやマフラーが十分に冷えてから行ってください。守らないと火傷をするおそれがあります。

エンジンのお手入れやその他の点検をするときは、エンジンカバーを開けてから作業をしてください。

エンジンカバーの取っ手をつかんで、エンジンカバーを持上げてください。



カバー開放時



[重要]

- エンジンカバーを閉じるときは、手をはさまないようにゆっくりとカバーを下ろしてください。

3. 長期間使用しない場合の手入れ

⚠ 警告

- 格納する場合は、バッテリーを外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと事故をおこすおそれがあります。

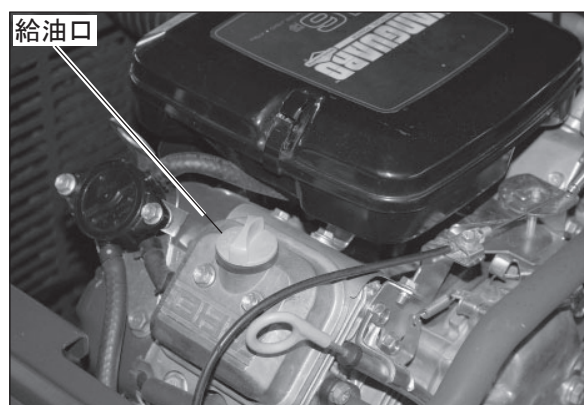
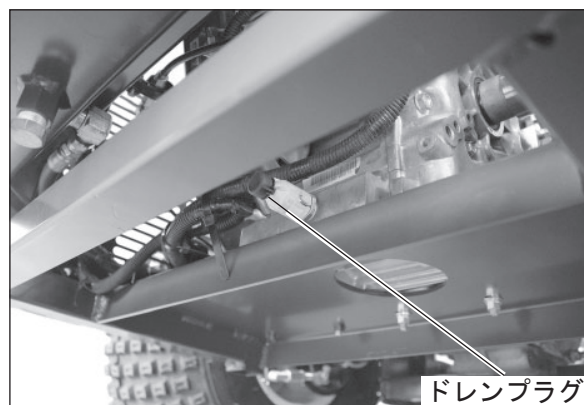
[重要]

- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

① エンジンを低速で運転 (約 5 分間) 停止します。

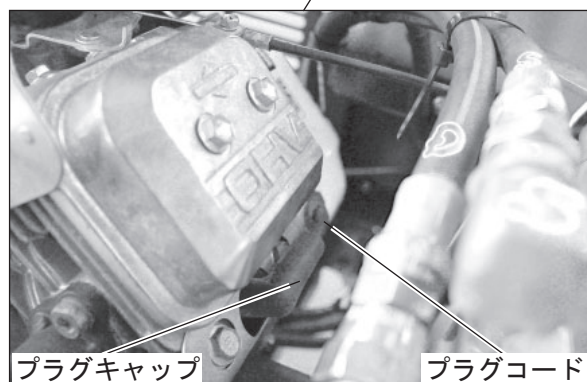
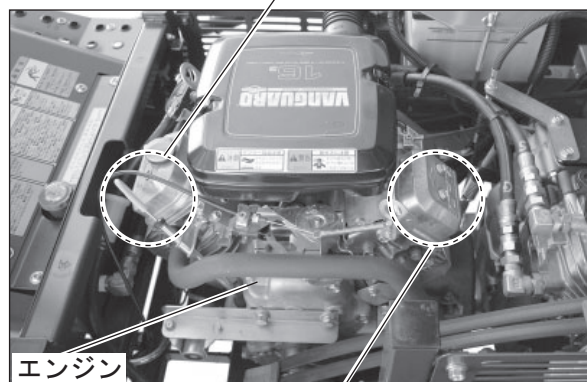
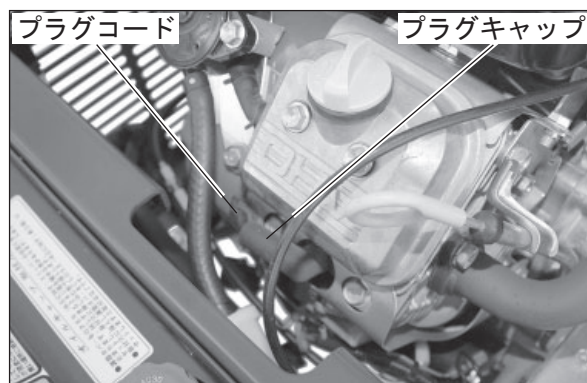
② エンジンが温かいうちにエンジンオイルを抜出して、新油と交換してください。(P 53「3. 各部オイルの点検・交換のしかた」参照)

※ 交換時期の目安は P 49 を参照してください。



※エンジンが熱い間は、作業をしないでください。

- ③ 点火プラグを外し、点火プラグの穴からエンジンオイルを 10 cc 位入れます



- ④ 再び点火プラグを取付けてください。
- ⑤ プラグキャップ・プラグコードは点火プラグに確実に差込んでください。
- ⑥ 燃料タンク・キャブレタ・燃料こし器の中の燃料は抜取っておいてください。

燃料について

[重要]

- ガソリンは 1 ヶ月以上放置すると「気化」・「酸化」してエンジンの始動不良や運転不調をひきおこします。これを防ぐためにタンク内の燃料に燃料劣化防止剤（フレッシュスタート）を添加してください。エンジンを 2 分程運転し、燃料劣化防止剤がキャブレタに循環するようにしてください。これによってエンジンおよび燃料は最大 2 4 ヶ月間保管できます。燃料劣化防止剤を使用しない場合、保管時にはタンクやキャブレタ等の燃料システムからガソリンを完全に抜いてください

燃料抜きのかた

⚠ 危険

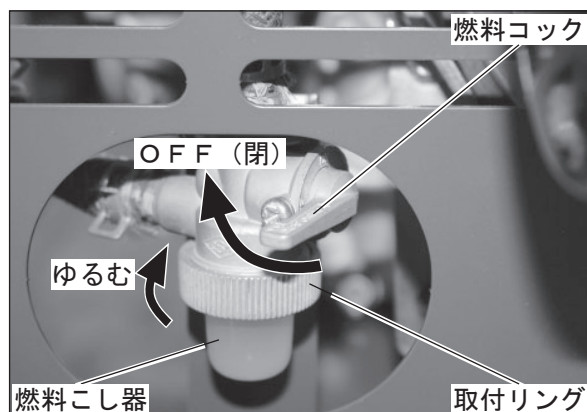
- ガソリンは揮発性が強く、極めて可燃性が高く、爆発性があります。火災または爆発により火傷や死亡事故が起きる可能性があります。
- 燃料の交換中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジンを止め、エンジン・マフラーなどの高温部が冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。
- 燃料コックが「ON（開）」になったままでカップを外すと、燃料ホース内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを「OFF（閉）」にしてください。

[重要]

- 燃料をぬくときは、平坦な場所で、必ず換気ができ、ヒータ、ストーブ、ボイラーまたは、パイロットランプを使う電化製品や着火源となるものがない場所で、必ずエンジン・マフラーが冷えてから行ってください。

①エンジンを停止します。

②燃料コックを「OFF（閉）」にします。



③燃料こし器の下に燃料受けを用意します。

④燃料こし器の取付リングをゆるめて燃料こし器のカップを外し、燃料こし器の燃料を抜きます。（P 59 参照）

⑤燃料コックを「ON（開）」にします。

⑥燃料の抜取り後は、燃料こし器を確実に元に戻してください。

エンジン以外の手入れ

①機体はきれいに清掃しておきましょう。

②不具合箇所は整備しておきましょう。

③各部の給油、注油を必ず行ってください。

④外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

⑤各部のボルト・ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。

⑥バッテリーは完全充電し、本機から取外し、風通しの良い場所に保管してください。

⑦タイヤは正規の空気圧にしてください。
（P 63 参照）

⑧格納場所は、周囲に紙などの燃えやすいものがない、雨の掛からない乾燥した場所を選んでください。

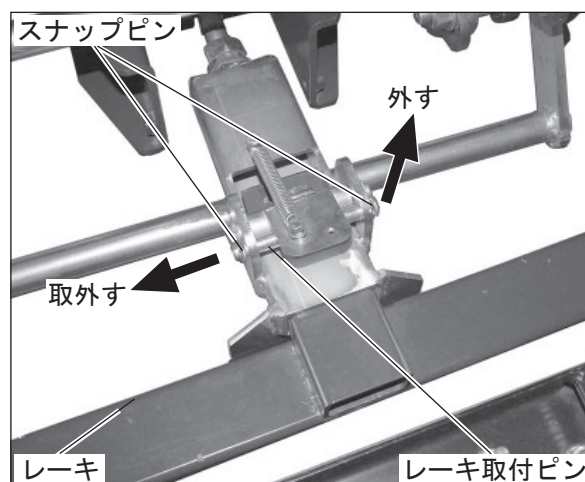
⑨レーキを上げた状態にし、タイヤの下には板を敷き、駐車ブレーキは掛けないで後輪に「車止め」をしてください。

【重要】

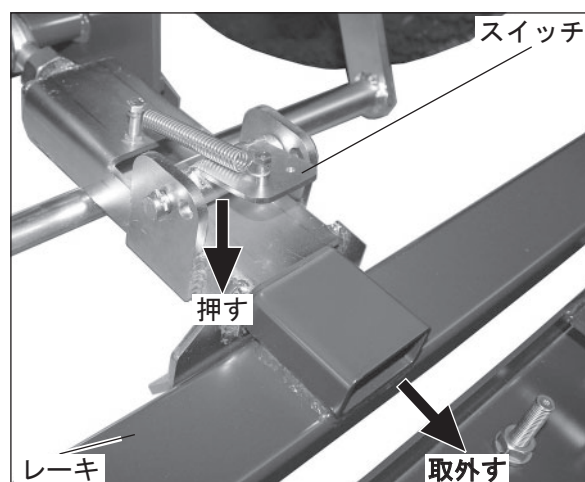
●バッテリーは使わなくても自然放電します。1ヶ月に1度は充電器で完全充電してください。
（P 62 参照）

レーキのはずしかた

①レーキの接続部にあるスナップピンを外して、レーキ取付ピンを取外します。



②スイッチを押さえて、レーキを取外します。



長期間格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

①始業点検を確実に行ってください。

②エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で5分程度、運転してください。

6章 手入れと点検・調整について

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。
 - エンジンの回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
-

⚠ 警告

- 点検、整備は交通の危険がなく、本機が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。
-

⚠ 注意

- 1年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
 - 点検、整備、修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部が十分に冷えてから行ってください。火傷をするおそれがあります。
 - 点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてから作動確認をしてください。衣類などが巻込まれて危険です。
 - 部品の交換、および草などのゴミを取るときは、エンジンが十分に冷えてから行ってください。
-

定期点検や整備は、シーズンオフに行いますとシーズン中に機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するために、1年毎に販売店で定期点検、整備を受け、各部の安全を確認してください。特に燃料ホースやゴムホース類は2年毎に交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

○＝点検、△＝清掃、▼＝交換（初回）、●＝交換

点検・調整箇所		項目	アワメータ表示時間													参照 ページ	
			作業 前	作業 後	5 時間 毎	25 時間 毎	50 時間 毎	100 時間 毎	150 時間 毎	200 時間 毎	250 時間 毎	500 時間 毎	1000 時間 毎	1 年 毎	2 年 毎		4 年 毎
エンジン部	各部の締付	締付け状態	○														6 6
	燃料	油量・汚れ・ 漏れ	○														3 0
	エンジンオイル	油量・汚れ・ 漏れ	○		▼			●									5 3
	オイルフィルタ	汚れ	○					●									5 4
	エンジン側 エアクリーナ	プレクリーナ 汚れ・損傷	○			△											5 8
		カートリッジ 汚れ・損傷	○					△									5 8
	燃料こし器	汚れ	○				△										5 9
	燃料ホース	接続状態・ 亀裂	○										○		●		5 9
	点火プラグ	汚れ					○	●									6 0
	各ゴムホース	接続状態・ 亀裂	○						○							●	—
本体部	各支点・摺動部	油・グリス					○										5 1
	本機右側 エアクリーナ	エレメント	○					△		●							5 7
	電気配線	傷・ 被覆のはがれ	○											○			5 9
	バッテリー	液量・接続	○														6 1
	タイヤ	空気圧・亀裂	○														6 3
	ハンドル	遊び・ 効き具合	○														6 3
	ブレーキペダル	遊び・ 効き具合	○														6 4
	クラッチレバー	作動	○														6 3
	H S Tペダル	作動・機能	○														6 4
	レーキピン	磨耗度合・ 損傷	○														6 5
	各部ワイヤ	外観・伸び	○														—

○＝点検、△＝清掃、▼＝交換（初回）、●＝交換

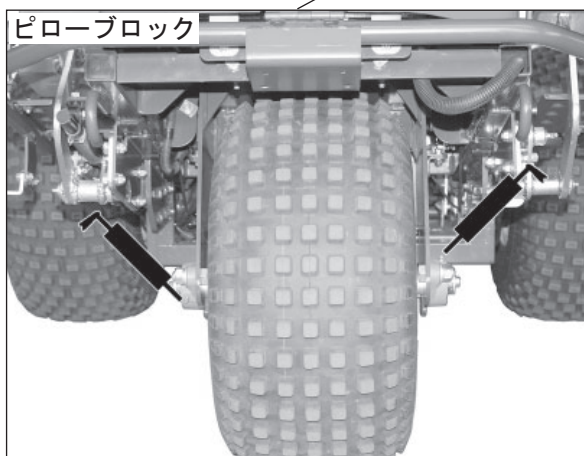
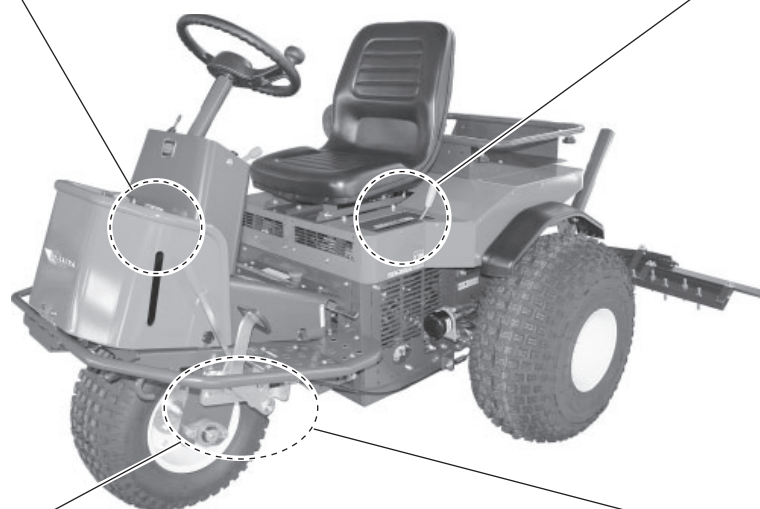
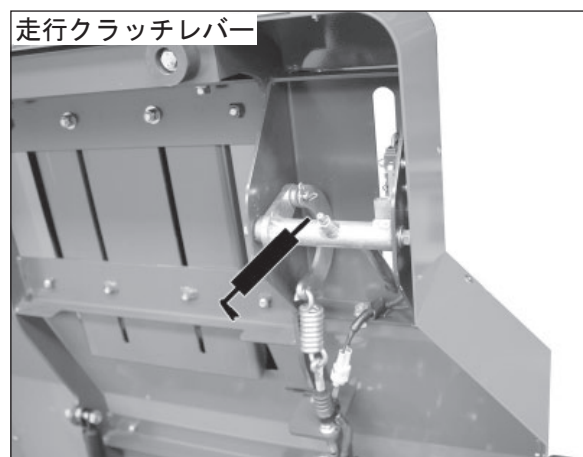
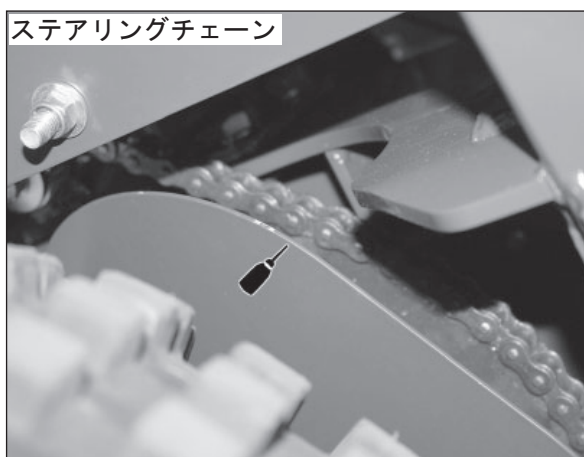
点検・調整箇所		項目	アワメータ表示時間													参照 ページ	
			作業前	作業後	5時間毎	25時間毎	50時間毎	100時間毎	150時間毎	200時間毎	250時間毎	500時間毎	1000時間毎	1年毎	2年毎		4年毎
本体部	各部ボルト・ナット	締付け状態	○														6 7
	外観清掃	作動・機能		○													—
油圧部	ミッションオイル	油量	○				▼	●									5 5
	HSTオイル	油量	○					●									5 5
	HSTフィルタ	汚れ	○					●									5 6
	油圧ホース	接続状態・亀裂	○	始業前点検で異常が見つかったら交換													—

2. 各部の注油・グリスアップのしかた

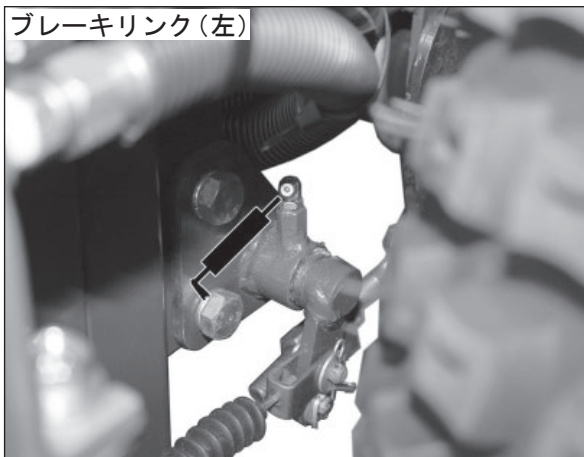
⚠ 注意

- 記載されている以外にも、摩擦部や摺動部には必ず注油・グリスアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害をおこすおそれがあります。
- 定期的にグリスポンプで確実にグリスアップをしてください。

＜凡例＞  注油箇所  グリスアップ位置



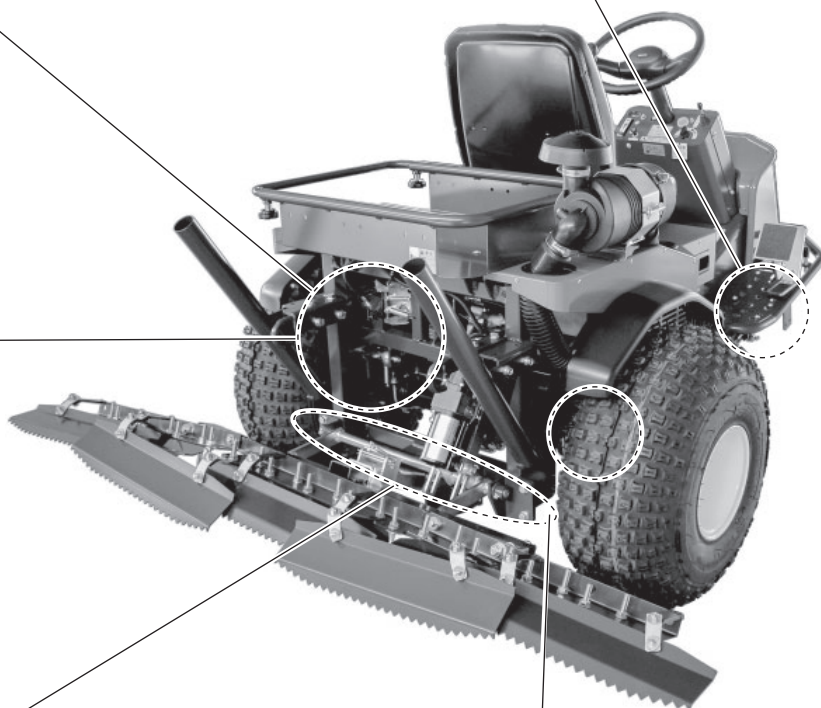
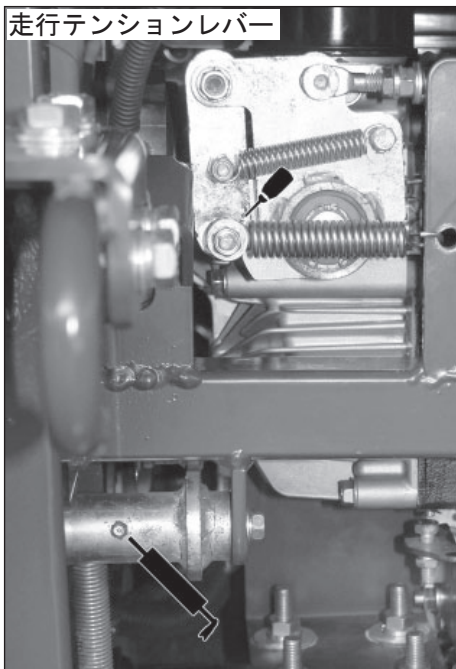
ブレーキリンク(左)



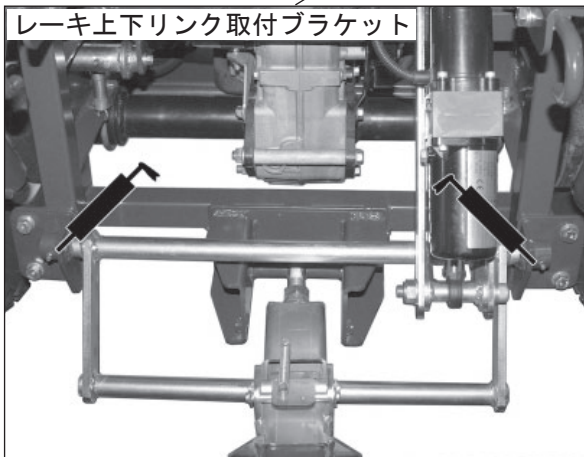
HSTペダル



走行テンションレバー



ブレーキ上下リンク取付ブラケット



ブレーキリンク(右)



3. 各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜取り、新しいオイルを規定量給油してください。

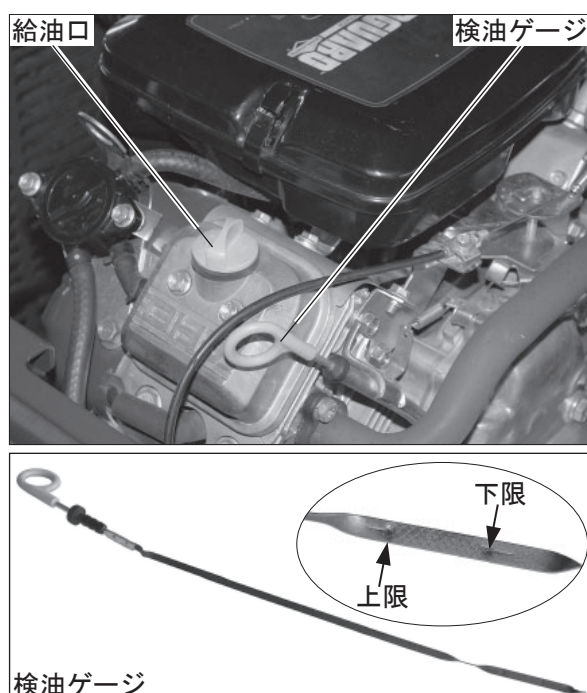
[重要]

- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

エンジンオイル

点検・補給

- ①機械を水平な場所に置きます。
- ②検油ゲージを外して、検油ゲージに付着したオイルをきれいにふきます。
- ③検油ゲージをいっぱいに差込み、再び抜いて検油ゲージの「上限」と「下限」の間にオイルがあるか確認します。



- ④不足している場合は、給油口より検油ゲージの規定量まで補給してください。

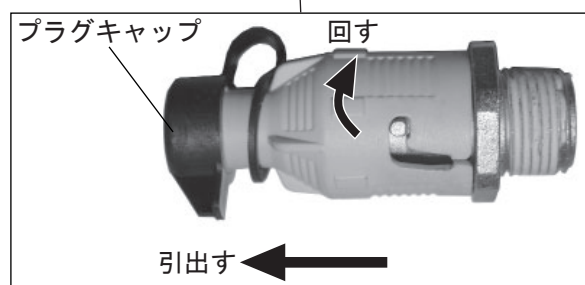
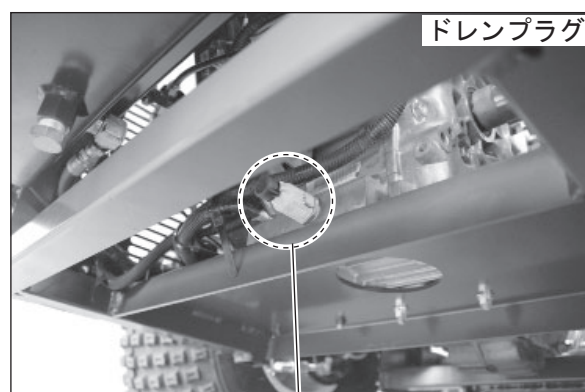
※運転前に必ずエンジンオイルの点検を行ってください。

※補給したエンジンオイルは、オイルパンに下るまである程度時間を要します。補給してから10分～20分後にオイル量を再点検してください。

交換

- ①ドレンプラグを回して手前に引出し、プラグキャップを外して、給油口の蓋をエンジンオイルが噴き出さないように少しずつ加減をしながらゆるめ、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。

※エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。



- ②ドレンプラグを元通りにします。次にオイルフィルタを交換します。(54 ページ参照)

- ③エンジンオイルは1.0 L 入れ、検油ゲージでオイル量を確認しながら補充します。

エンジンオイル SAE 級以上

- 春～秋期 (10℃以上)・・・SAE30
- 冬期 (10℃以下)・・・SAE10W-30

- ④不足していれば少しずつ追加してください。
エンジンオイル量は、約 1.4 L です。
(オイルフィルタを含みます。)
- ⑤給油は、給油口より検油ゲージの上限と下限の間になるまで入れてください。
- ⑥給油口の蓋を取付けます。
- ⑦エンジンオイルはオイルパンにさがるまでにある程度時間を要します。給油後、10 分～20 分後に再点検をしてください。

⚠ 注意

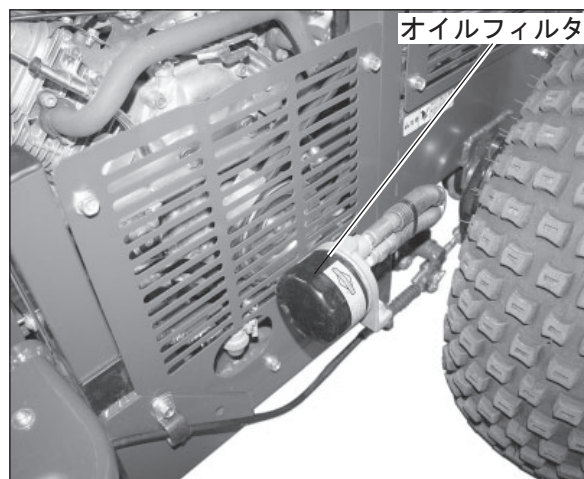
- エンジンが熱いうちは行わないでください。
熱いオイルが体にかかると火傷をするおそれがあります。

[重要]

- オイルの入れ過ぎはエンジンの故障の原因になります。
- オイルの量はエンジンを停止して確認してください。
- 給油するときは、本機を必ず水平にして行ってください。
- エンジンオイルを抜くときに、検油ゲージを外すとエンジンオイルの交換が楽にできます。
- 給油をするオイルは、必ず、規定のオイルを使用してください。
- オイルの点検・交換作業後はドレンプラグや給油口の蓋を確実に締付けてください。
- 使用初期は、内部部品の初期摩耗のためオイルが早く汚れるので、早めにエンジンオイルを交換してください。2 回目以降は、100 時間毎に交換してください。ホコリの多い場所で使用される場合は、交換時期を早めてください。

オイルフィルタ

エンジンオイルの交換に併せてオイルフィルタの交換も行ってください。オイルフィルタは、エンジンオイルを抜取って、ドレンプラグを取付け終わってから交換してください。



- ①オイルフィルタを外し、きちんと処理をしてください。
- ②新しいオイルフィルタを取付ける前に、ガスケット部にきれいなオイルを塗布してください。
- ③オイルフィルタをガスケットがアダプタに当るまで手で締め、さらに工具で 1 / 2 ～ 3 / 4 回転させて取付けます。

※オイルフィルタの取付後にエンジンオイルを給油してください。

ミッションオイル

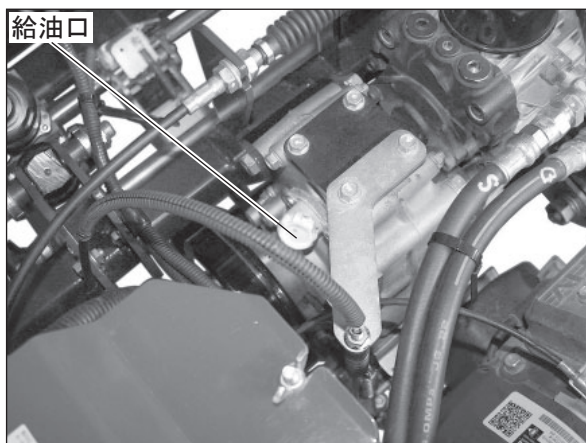
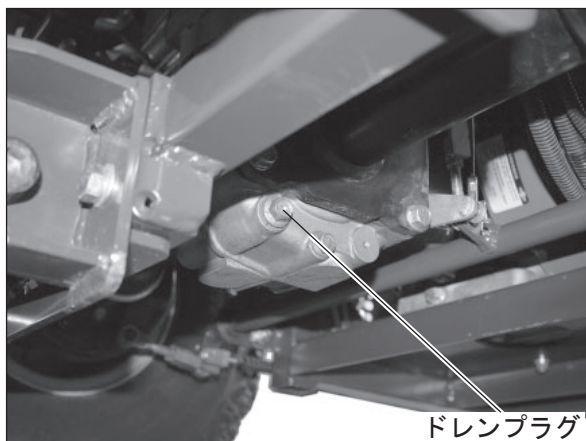
点検

油もれのないことを確認してください。

交換

走行ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出し、（機体を傾けて排油してください。）こぼさないように容器に受けてください。給油は、規定量（2.5L）入れてください。

ミッションオイル
●ギアオイル 90 番



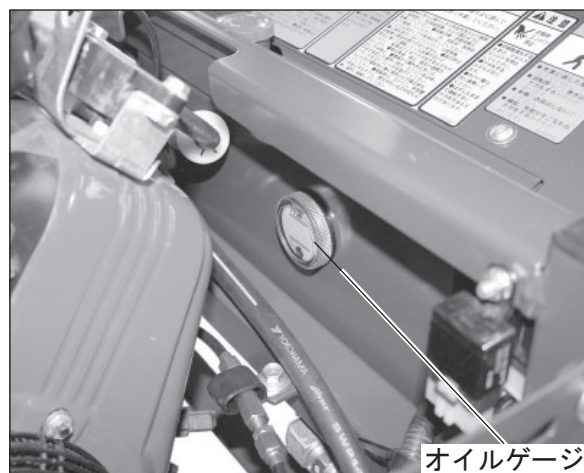
〔重要〕

- 廃油受け皿に排出したオイル内に鉄粉などが混入している場合は、ギヤの磨耗などミッションの破損の前兆であり、走行ミッションの分解チェックを要します。お買上げいただいた販売店にご相談ください。

HSTオイル

点検

油もれのないことを確認してください。エンジンカバーを開けて、ステップ側にあるオイルゲージでHSTオイル残量を確認し、不足している場合は、補給してください。

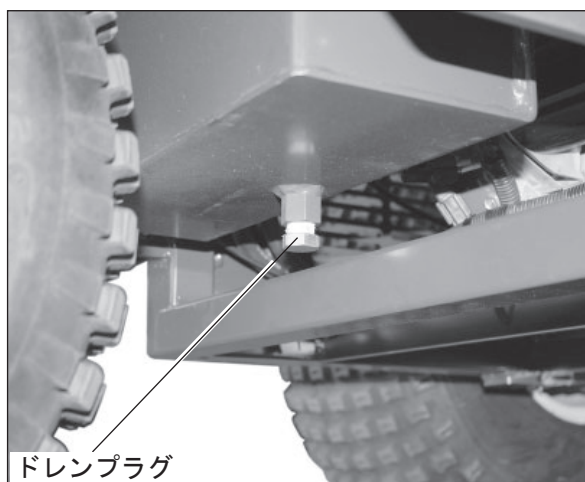


交換

HSTオイルタンク下部のドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。給油は、規定量（8 L）入れ、もう一度オイルゲージでオイル量を確認し、不足している場合は補給してください。

エンジンオイルCD級以上

● SAE10W-30

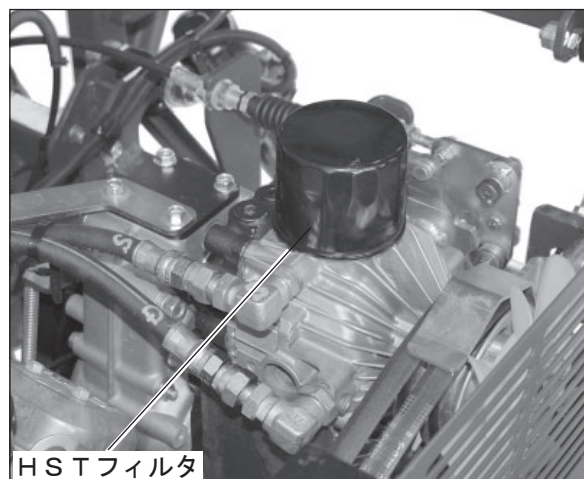


【重要】

- 給油口のキャップを回し過ぎないようにしてください。回し過ぎるとネジ部を痛めます。

HSTフィルタ

HSTオイルの交換に併せてHSTフィルタの交換もしてください。HSTフィルタは、HSTオイルを抜取って、ドレンプラグを取付け終わってから交換してください。



4. エアクリーナの点検・洗淨のしかた

本機右側エアクリーナ

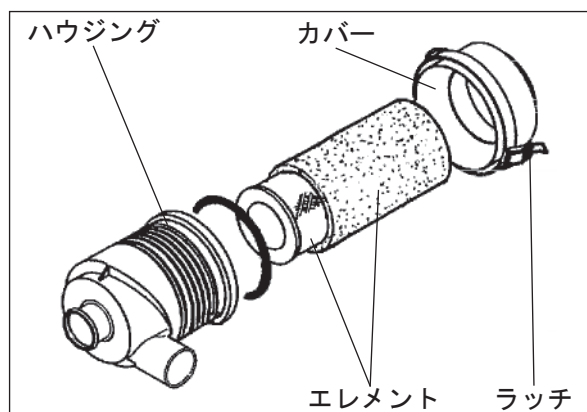
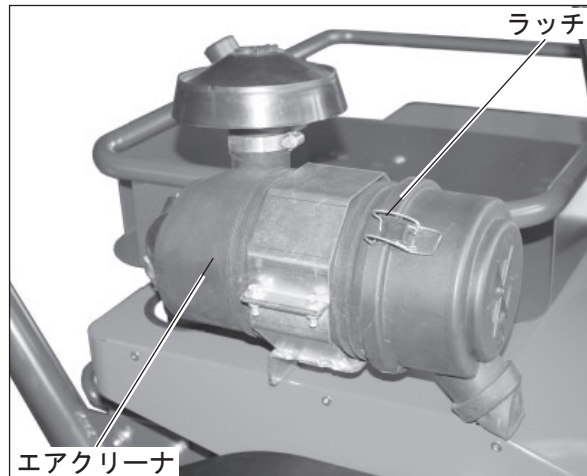
エアクリーナは、いつもエンジンを快適にする装置です。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

点検

- ①エアクリーナに損傷がないか確認してください。
- ②エアクリーナに汚れがないか確認してください。

洗淨

- ①カバーのラッチをすべて外し、カバーを取外します。ダストが堆積している場合には、取除きます。



- ②エレメントの端を持って上下左右に動かしたり回転させたりしてゴミ・埃が飛ばないように静かにエレメントを拔出します。

- ③ハウジング内のシールチューブ内外面を清掃後、エレメントの内部から圧縮空気を折り目に沿って上下するように吹付けて清掃をします。

- ④汚れがひどいときは、水または中性洗剤を溶かした液に 30 分程度、エレメントのシール部を上にして液面より突出させて、汚水がエレメント内側に侵入しないよう浸漬し、その後、汚水がでなくなるまで、水ですすぎ洗いし、自然乾燥させてください。

※圧縮空気でエレメントの乾燥は、しないでください。

- ⑤エレメントをセットする前に、エレメントシール部の異常・その他損傷がないか確認し、異常があれば新しいものと交換してください。

- ⑥エレメントをセットするとき、ハウジング内のシールチューブにエレメントシール部が正しくセットされたことを確認し、エレメントの外周部を押して奥まで十分に挿入されたことを確認してください。

- ⑦カバーを押え込みながらラッチのフックが正規の位置に掛かっていることを確認してから、ラッチを止めてください。

清掃	100時間毎
交換	200時間毎

【重要】

- 埃の多い場所で使用される場合は清掃・交換時期を早めに行ってください。

エンジン側エアクリーナ

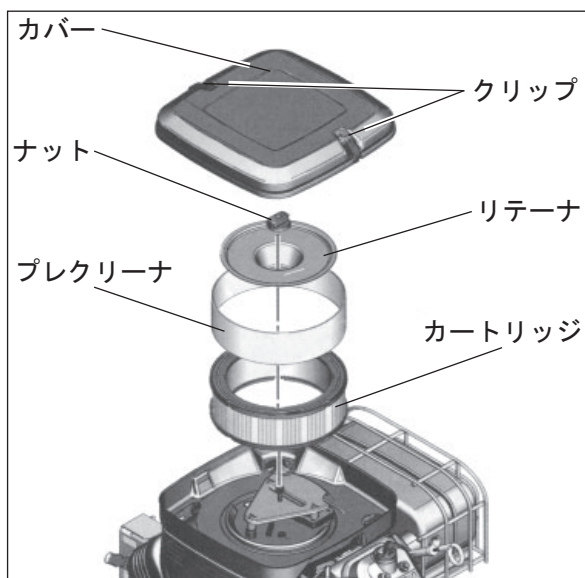
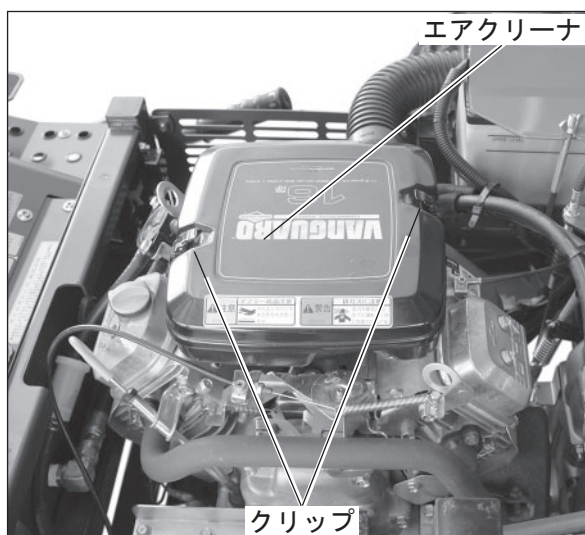
エアクリーナは、いつもエンジンを快適にする装置です。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

点検

- ①エアクリーナに損傷がないか確認してください。
- ②エアクリーナに汚れがないか確認してください。

洗浄

- ①エアクリーナのクリップをゆるめてカバーを取外します。



- ②ナットを緩めてリテーナを外します。

- ③プレクリーナを外してカートリッジを抜きだします。

- ④ごみを取除き、カートリッジを平らな面で軽く叩きます。汚れの著しいものや損傷しているものは、新品と交換してください。

- ⑤プレクリーナは、洗淨水で洗い、乾燥させます。オイルは含ませないでください。

- ⑥乾燥したプレクリーナとカートリッジを元通りに取付けて、リテーナとナットで確実に固定し、カバーを取付けてください。

※エアクリーナは必ず元通りに取付け、カバーをしてからエンジンを始動してください。

部品	時期
プレクリーナ	25時間毎清掃
カートリッジ	100時間毎清掃

※埃がひどい状況下ではより頻繁に清掃してください。

[重要]

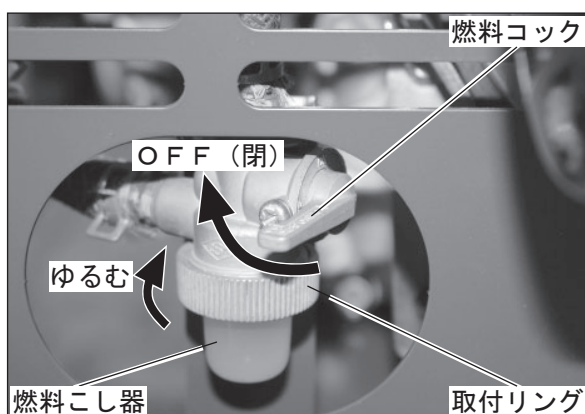
- エアクリーナの清掃に圧縮空気や溶剤を使用しないでください。圧縮空気はエアクリーナを破損させるおそれがあり、溶剤はエアクリーナを溶かすおそれがあります。

5. 燃料こし器の掃除 のしかた

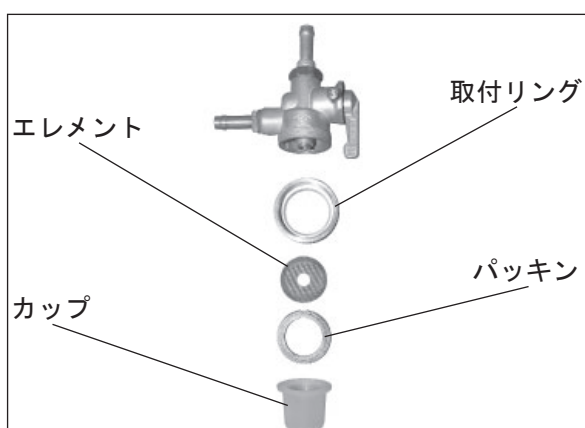
⚠ 危険

- 燃料コックが「ON（開）」になったままで燃料こし器のカップを外しますと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを「OFF（閉）」にしてください。

- ① 燃料コックを「OFF（閉）」にします。
- ② 取付リングをゆるめてカップを外します。



- ③ カップのゴミや水を取除き、灯油でエレメントの目詰まりを掃除します。このとき、汚れがひどい場合は、交換してください。



- ④ カップを元に戻して確実に取付けます。

【重要】

- ゴミや水の混入が多い場合は、燃料を抜き取り、新しい燃料と交換してください。（P 47 参照）

6. 燃料ホース・電気配線の 点検のしかた

⚠ 危険

- 燃料ホースの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

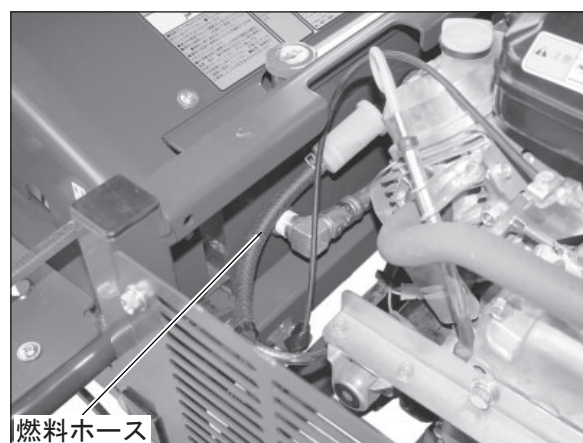
⚠ 注意

- 配線コードに付着している砂やゴミは、作業前後にきれいに取除いてください。守らないと、火災の原因となることがあります。

燃料ホースの傷や接続部の締付けバンドのゆるみ、燃料もれがないか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触していないか点検します。燃料ホースや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店に修理を依頼してください。

燃料ホースは傷んでいなくても2年毎に交換するようにしてください。

電気配線は1年毎に定期点検を受けてください。

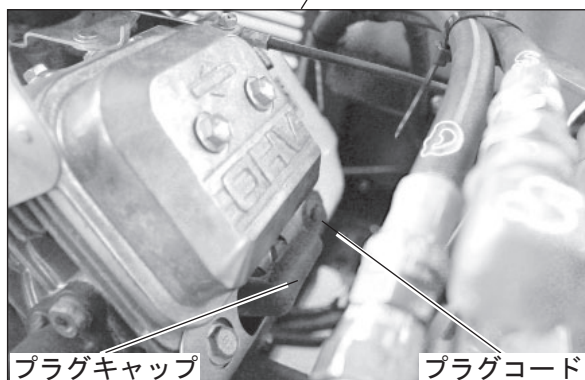
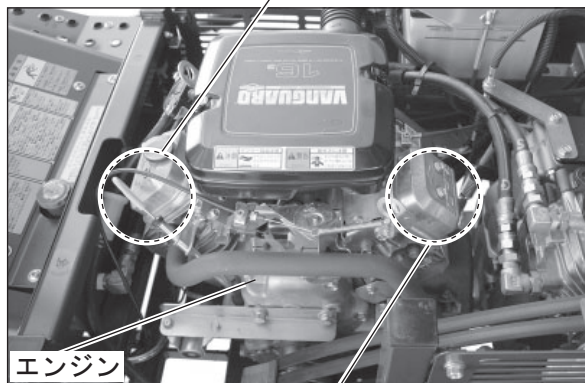
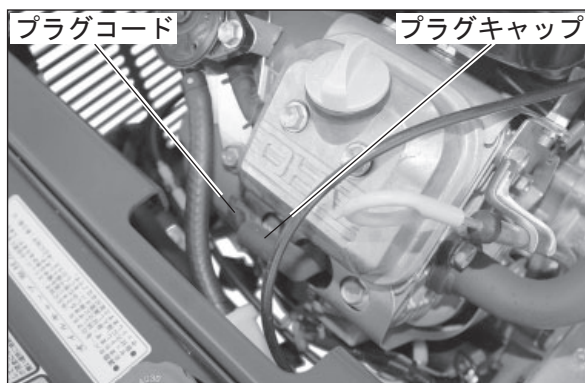


7. 点火プラグの 点検のしかた

⚠ 注意

- エンジンが熱いうちに点火プラグを外さないでください。火傷のおそれがありますので、エンジンが冷えてから行ってください。

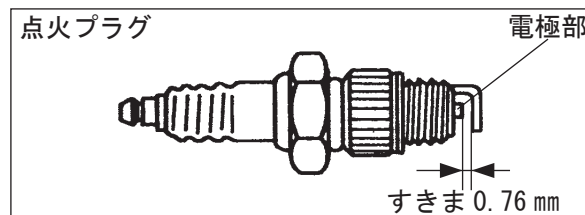
- ① 定期的に2ヶ所の点火プラグを外し、電極部の焼け具合、損耗程度を点検し、ワイヤブラシで清掃します。



- ② 電極部のすきまは0.76mmに調整してください。

※始動不良、運転中の失火は点火プラグの電極すきまが大きすぎても少なすぎても、点火プラグが汚れたときにもおこります。

標準点火プラグ	部品番号 792015
---------	-------------



※点火プラグは締付トルク 20 N・mで締付けてください。

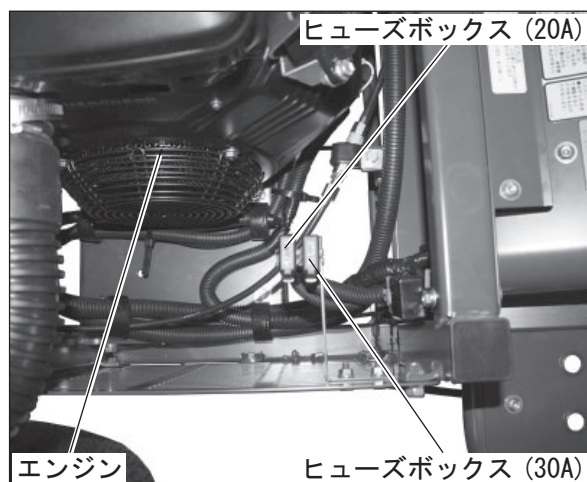
[重要]

- 電極部の清掃、電極すきまの調整をしてもまだエンジンのかかりが悪い場合は、お買上げいただいた販売店で点検を受けてください。
- 電極部が損耗または、破損したものは新品と交換してください。そのまま使用するとエンジンの不調、燃料のムダ使い、排ガス不良となります。
- プラグコード・プラグキャップは点火プラグに確実に差込んでください。

8. ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路（通電している回路）へ過大電流が流れた場合、熔断して電流を遮断します。

エンジンカバーを開けて、エンジン横にヒューズボックス（後輪側 20 A と前輪側 30 A）があります。ヒューズ切れの場合は交換してください。



[重要]

- ヒューズを交換するときは、バッテリーの⊖側コードを外してから、必ず規定容量のものと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因になります。
- ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店で点検を受けてください。

9. バッテリーの点検、整備のしかた

⚠ 危険

- バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。守らないと引火爆発し、火傷を負うおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸ですので身体や服に付くと、服が破れたり、火傷を負うことがあります。もし、身体や服に付いたときは、すぐに水洗いをしてください。
- バッテリーからコードを外すときは、必ず⊖側から外し、取付けるときは、必ず⊕側から取付けてください。工具などが接触したときにショートして、火傷や火災事故をまねくおそれがあります。
- バッテリー⊕ターミナルのゴムブーツは必ず取付けておいてください。ショートすると火傷や火災事故をまねくおそれがあります。
- バッテリー充電中は、ガスが発生しますので風通しの良い場所で行ってください。

⚠ 警告

- バッテリー液は液面レベルの「上限 (UPPER LEVEL)」と「下限 (LOWER LEVEL)」の間にあることを確認してください。もし「下限 (LOWER LEVEL)」以下になると、容器内の極板接続部が露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

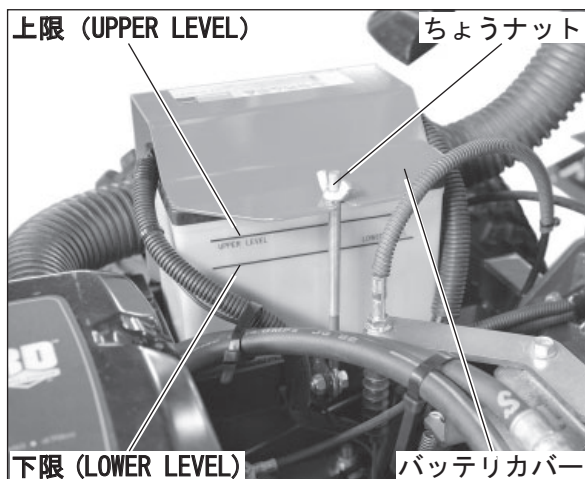
バッテリー液点検

作業前には、各槽のバッテリー液がバッテリーケース液面レベルの「上限 (UPPER LEVEL)」と「下限 (LOWER LEVEL)」の間にあるか確認してください。不足しているときは、バッテリーカバーを外して蒸留水を補給してください。

※蒸留水はガソリンスタンドで販売しています。

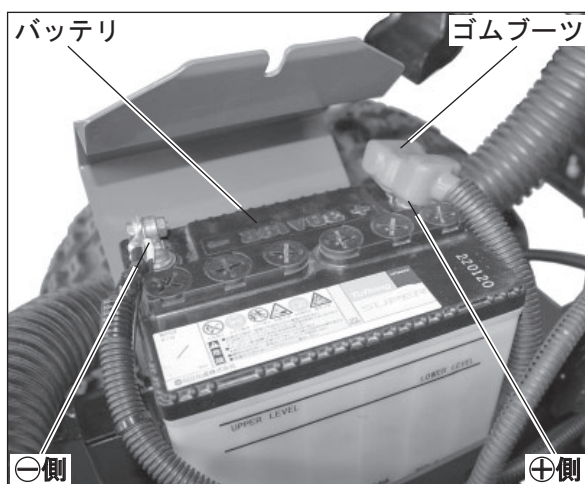
補充電のしかた

- ① バッテリーカバーを止めてあるちょうナットをゆるめ、バッテリーカバーを取外します。



- ② バッテリーの⊖側のコードを取外し、次に⊕側のコードを取外してバッテリーを取出します。

指定バッテリー	30A19R
---------	--------



- ③ 充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕側に、バッテリーの⊖を充電器の⊖側に接続して行いますが、詳しくは、充電器の取扱説明書を十分お読みになってから行ってください。

※なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。

- ④ バッテリーを取付けるときは、取外しの逆の手順で行ってください。

格納のしかた

格納時は、本機を水平にし、バッテリー液がこぼれないようにしてください。
長期格納時は、バッテリーの⊖側のコードを取外すか、バッテリーを本機から取外し、日光が当たらない、乾燥した場所に保管してください。

【重要】

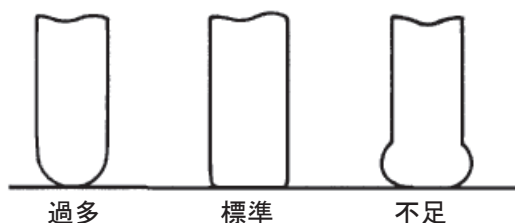
- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー液をバッテリーケース液面レベルの「上限 (UPPER LEVEL)」を超えるほど入れますと、使用中に液もれし、本機を腐食させることがありますので、補給するときは、液面レベル「上限 (UPPER LEVEL)」を超えないように注意してください。
- 寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなってきましたら、補充電を行ってください。また、2週間以上運転しないと、バッテリーが放電してセルモータでの始動ができない場合があります。このときにも補充電をしてください。
- 本機を長時間使用しないときは、最低1ヶ月に1回は補充電を行ってください。バッテリーが長持ちします。
- 取付けのとき、ターミナル接続部の油などを布でふき取り、バッテリー端子を確実に締付けて、腐食防止のためにターミナル部にグリスを塗布してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず規定のバッテリーを使用してください。
- 環境保全のため、交換した古いバッテリーは放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。

10. タイヤ空気圧の調整のしかた

⚠ 注意

- 左右の空気圧が均等になっていないと運転中にハンドルを取られることがあります。タイヤの空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。

タイヤサイズ	空気圧 KPa (kgf/cm ²)
前輪タイヤ 21 × 11.00-10 2 P R	1 0 0 (1 . 0)
後輪タイヤ 25 × 12.00-9 2 P R	1 0 0 (1 . 0)

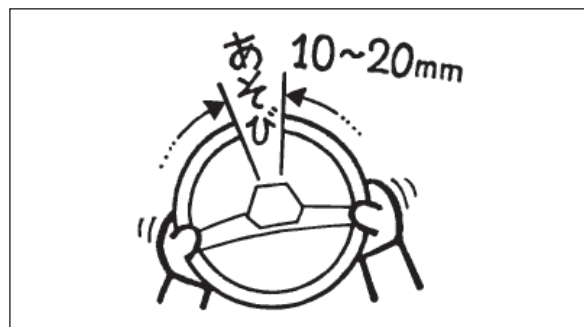


11. ハンドルの点検のしかた

⚠ 警告

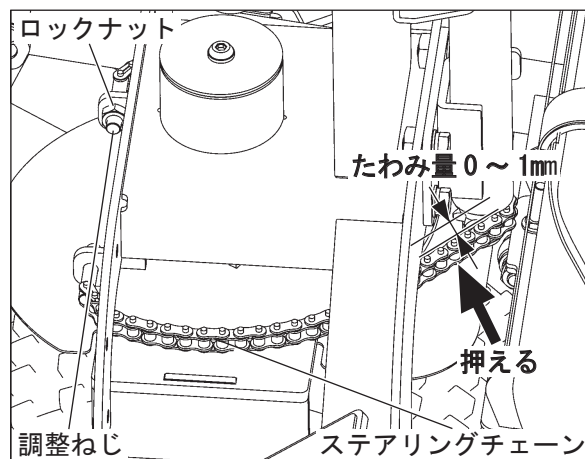
- ハンドルに著しくガタや遊びがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が10～20mmの範囲であるか確認してください。遊び量が少ない場合、ステアリングチェーンの張過ぎにより、ハンドルが重くなりチェーンの摩耗を生じます。また、遊び量が多い場合、ステアリングチェーンの緩みにより、ハンドル操作時に不具合が出ます。



ステアリングチェーンの調整のしかた

遊び量が適正でない場合は、ハンドル下にあるステアリングチェーンのゆるみ側（外側）の中央を指で押えたときに、たわみ量が0～1mm程度になるように調整してください。たわみが適正でない場合は、調節ねじでチェーンを調整します。



※調整についてはお買上げいただいた販売店にご依頼ください。

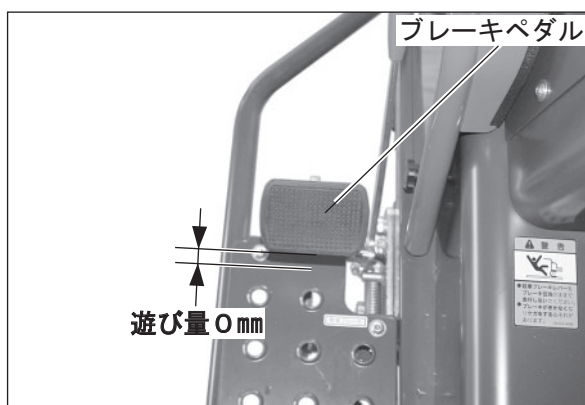
12. ブレーキの点検 のしかた

⚠ 警告

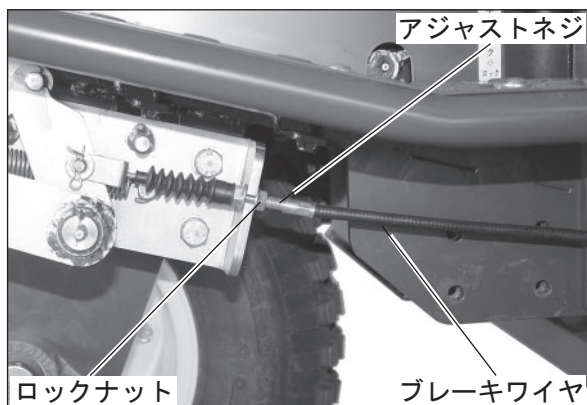
- ブレーキの効きが悪かったり、ブレーキが効いたままにならないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。
- 左右の車軸ブレーキが調整不良ですと、ブレーキの片効きが生じます。常に、左右の効きが同一であるようにしてください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ブレーキペダルの点検のしかた

- ①駐車ブレーキレバーを「解除」位置にしたときにブレーキペダルに遊びがでていないか確認してください。



- ②遊びがでた場合、遊びが 0 mm になるようにブレーキペダル下にあるアジャストネジでブレーキワイヤを調整します。

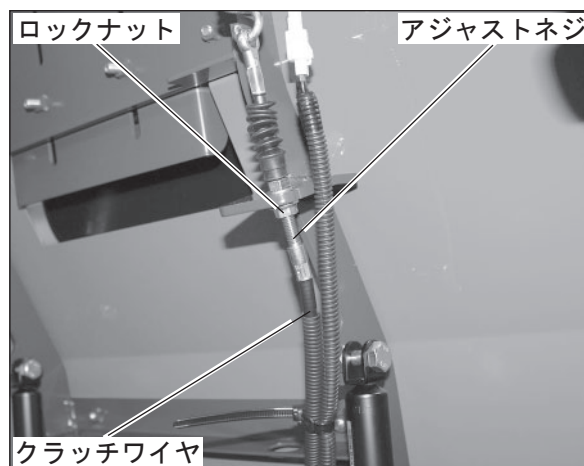
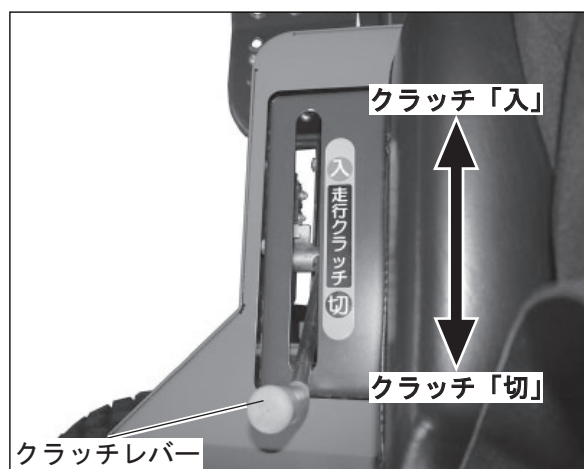


※調整についてはお買上げいただいた販売店にご依頼ください。

13. クラッチレバーの 点検のしかた

点検

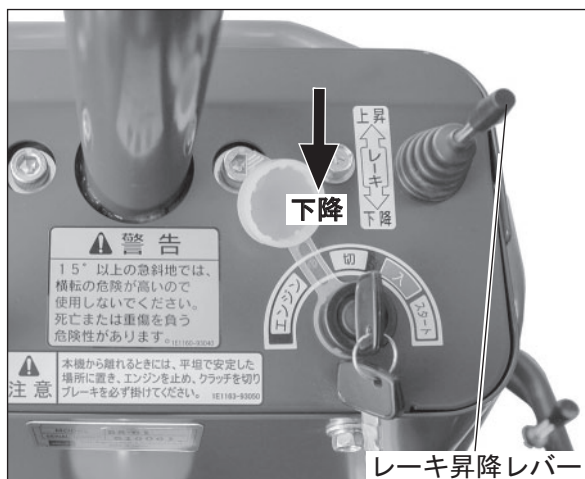
走行クラッチレバーが「入」、「切」が確実に行われ、しかも「切」位置でベルトのつれ回りがどうか点検してください。もしベルトがスリップしたり、つれ回りが発生した場合は、走行クラッチレバーの下にあるアジャストネジでクラッチワイヤを調整します。調整については販売店にご依頼ください。



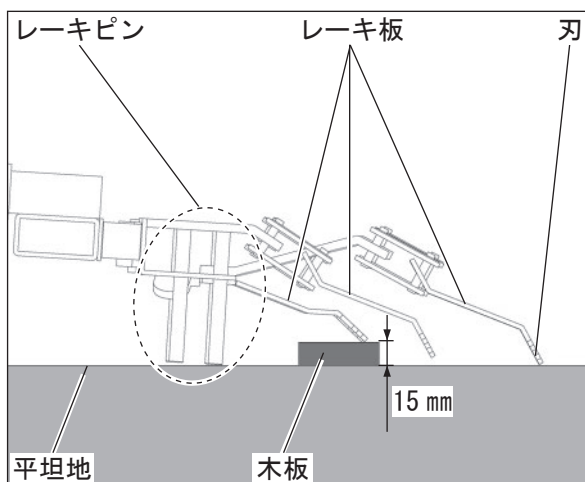
14. レーキの点検・ 交換のしかた

点検

- ① 平らな場所でレーキ昇降レバーを「下降」位置へ操作し、レーキを下げてください。



- ② 200 mm程度ゆっくり前進し、レーキ板の下に厚さ 15 mm程度の木板を入れてください。

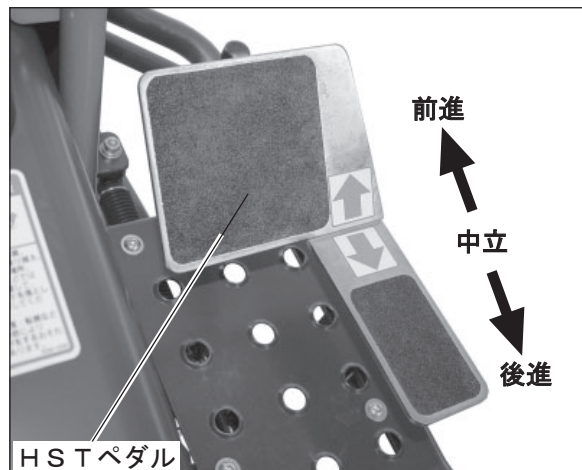


- ③ 木板にレーキの荷重がかかり、レーキ板の刃の先端が地面と軽く接触する位置にあるとき、レーキピンが地表に接しているように調整 (P39 参照) してください。もしレーキピンの調整しろがなければ、お買い上げいただいた販売店にご依頼、交換してください。

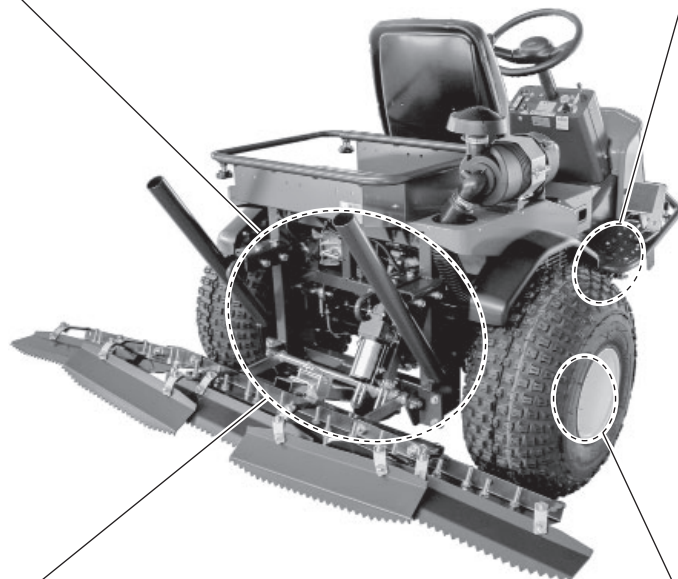
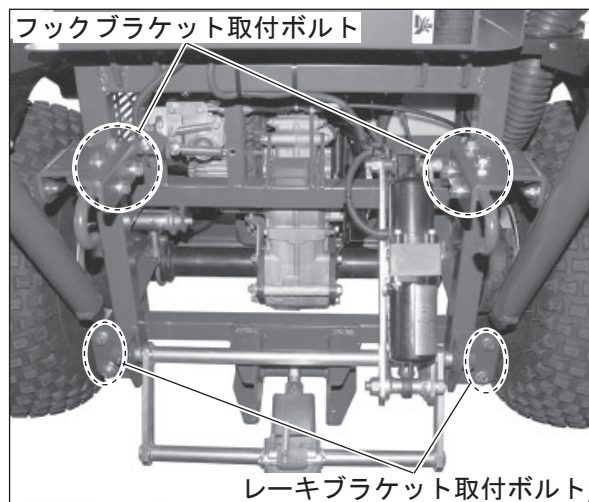
※ 25 本全て調整してください。

15. H S T ペダルの点検 のしかた

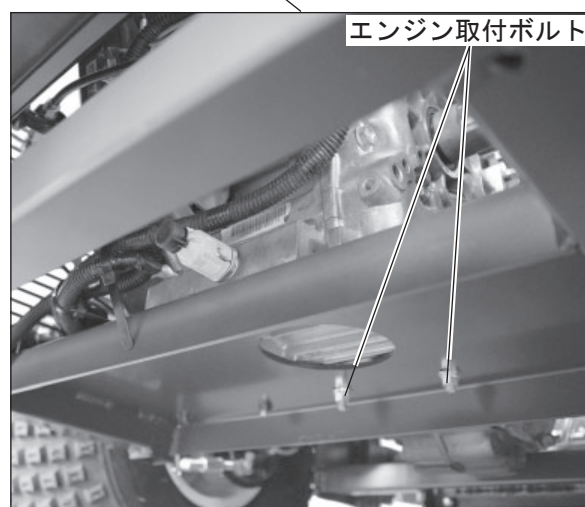
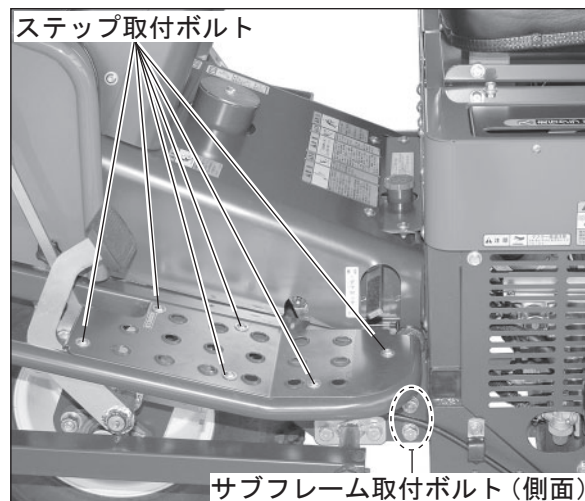
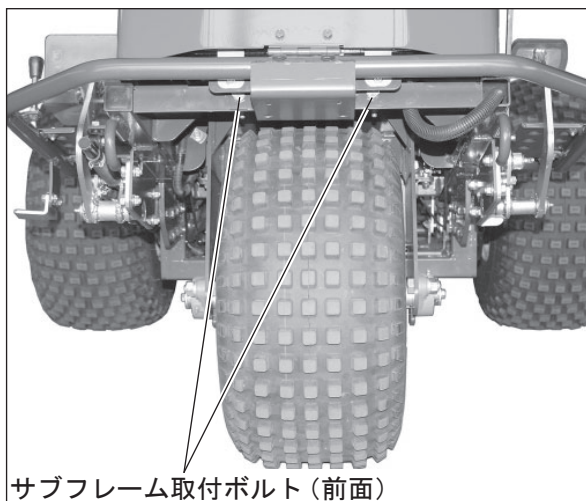
H S T ペダルで「前進」・「後進」が、確実に行われ、「中立」で停止できるか確認してください。もし、不具合がありましたら、お買い上げいただいた販売店で必ず点検・調整を受けてください。



16. 締付けをするところ



※ピロー取付ボルト・後輪タイヤ取付ボルトは左右にそれぞれあります。
※この他のボルト、ナットも時々点検し、増締めしてください。



※前輪タイヤ取付ボルト・ステップ取付ボルト・サブフレーム取付ボルト（側面）は左右に、エンジン取付ボルトも前後にそれぞれあります。
 ※この他のボルト、ナットも時々点検し、増締めしてください。

警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、レーキ昇降レバーを「上昇」位置にし、駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、最寄の販売店に連絡してください。

1. エンジンがかからない

この確認をしてください。	処 置	参照ページ
燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。	30
購入後1ヶ月以上経過した燃料を使用していませんか。	燃料タンク・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料を補給をしてください。	47
エンジンの始動手順が間違っていないですか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	31
走行クラッチレバーを「入」位置にしていませんか。	走行クラッチレバーを「切」位置にしてから、キースイッチを「スタート」位置にしてください。	32
燃料に水が入っていませんか。	燃料こし器に水が溜まっていれば、燃料こし器を外して水抜きをしてください。	59
バッテリーが上がっていませんか。	バッテリーを点検し、補充電をしてください。	62
バッテリー液が減っていませんか。	バッテリー液を補充してください。	61
ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	61
点火プラグが悪くなっていますか。	点火プラグを外し、乾いた布などでよく乾燥させてください。	60
	点火プラグの電極部を清掃し、電極すきを調整してください。それでもかからない場合は、販売店に相談してください。	60

2. エンジンの力がない

この確認をしてください。	処 置	参照ページ
エアクリーナにゴミが詰まっていませんか。	エレメントを清掃または交換してください。	5 7
エンジンオイルが少なくなっていないですか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと交換してください。	5 3
積荷が重すぎませんか。	坂道では特に積荷を軽くしてください。	
ベルトがスリップしたり張りすぎたりしていませんか。	販売店で点検、調整を受けてください。	6 4
エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバーの取付位置や、アクセルワイヤのセット位置が動いていたら、必ず販売店で点検・調整を受けてください。	
エンジンの圧縮がないのではありませんか。	ピストンリングなどの磨耗も考えられますので、販売店に相談してください。	

3. 各部に振動が多い

この確認をしてください。	処 置	参照ページ
エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルトを強く締付けてください。	6 7
ハンドルが振れるのではありませんか。	販売店に相談してください。	

4. レーキ昇降シリンダが動作しない

この確認をしてください。	処 置	参照ページ
連続的にレーキを作動させていませんか。	過負荷時、DC モータに内蔵のサーキットブレーカが働きシリンダが動かなくなります。 DC モータが冷却されれば、サーキットブレーカが自動的に復帰し、再使用が可能となります。 サーキットブレーカが頻繁に作動するような使いかたはできません。	

1. 主要諸元

販 売 型 式 名			B R—0 1	
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2 2 3 0 (本体フレーム先端～レーキ後端)	
	全 幅 (mm)		1 3 6 0 (車体)	
			1 9 0 0 (作業機)	
	全 高 (mm)		1 2 8 0 (ハンドル上端)	
最 低 地 上 高 (mm)			1 5 0	
機 体 質 量 (kg)			4 4 0 (レーキ有)	
エ ン ジ ン	型 式 名		バンガード 3 0 5 4 4 7	
	種 類		V型2気筒横軸 ガソリンエンジン	
	最 大 出 力 {kW(ps)}		1 0 . 3 (1 4 . 0)	
	総 排 気 量 {L(cc)}		0 . 4 7 9 (4 7 9)	
	始 動 方 法		セルモータ式	
	燃 料 / タ ン ク 容 量 (L)		自動車用無鉛ガソリン / 1 6 . 0	
伝 動 ・ 走 行 部	走 行 速 度 (km/h)	前 進	0 ～ 1 9 . 0	
		後 進	0 ～ 7 . 5	
	タ イ ヤ	前 輪	2 1 × 1 1 . 0 0 - 1 0 2 P R	
		後 輪	2 5 × 1 2 . 0 0 - 9 2 P R	
	輪 距 (mm)		1 0 7 0	
	軸 距 (mm)		1 0 5 0	
	ブレーキ型式 / 取付位置		後輪内拡式ドラムブレーキ	

オ プ シ ョ ン	名 称	作業幅 (mm)	質量 (kg)
	ハ イ ド バ ン	8 0 0	3 0
	カ ル チ ベ ー タ	1 2 0 0	3 0
	仕 上 げ ブ ラ シ	1 9 5 0	1 0

●この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主要消耗部品

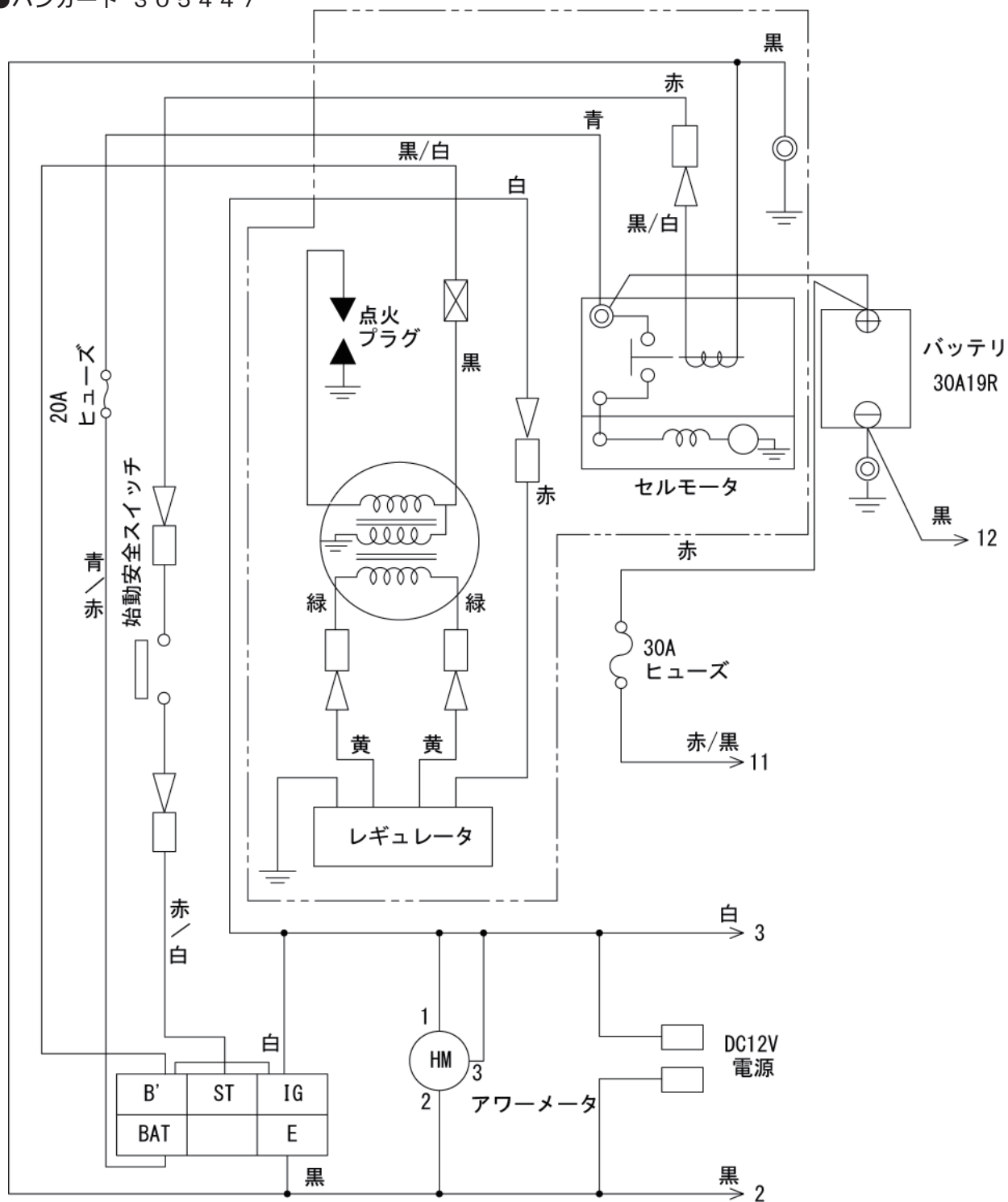
NO.	品名	部品番号	備考
1	VベルトSB45	25123-004501	2本（エンジン～ミッション）
2	HSTケーブル	1E1163-41080	
3	デフロックワイヤ	1E1163-51100	
4	ブレーキワイヤ	1E1163-51110	
5	走行クラッチワイヤ	1E1163-51120	
6	アクセルワイヤ（スロットル）	1E1163-51130	
7	チョークワイヤ	1E1163-51140	エンジン
8	タイヤ 21 × 11.00-10 2PR	7E1163-37100	1本 前輪
9	タイヤ 25 × 12.00-9 2PR	7E1163-37200	2本 後輪
10	レーキピン	1E1163-73161	25本
11	サポートレーキ	1E1163-73170	3個
12	レーキ	1E1163-73180	5個
13	バッテリー 30A19R	1N1286-51090	
14	センターブレーキシュー ASSY	7N1313-25010	
15	ブレーキシュー ASSY	7N1210-27040	
16	点火プラグ	792015	
17	エアクリーナ カートリッジフィルタ	394018S	エンジン側
18	オイルフィルタ（エンジン）	492932S	
19	フューエルフィルタ	845125	
20	フィルタ（10ミクロン）	1E1163-26040	HST

付属品

No.	品名	個数	部品番号	備考
1	プラグレンチ：P601	1	1E1166-11060	L=70
2	取扱説明書	1	1E1163-95042	
3	エンジン取扱説明書	1	—	
4	保証書	1	—	

9章 電気回路図

●バンガード 305447

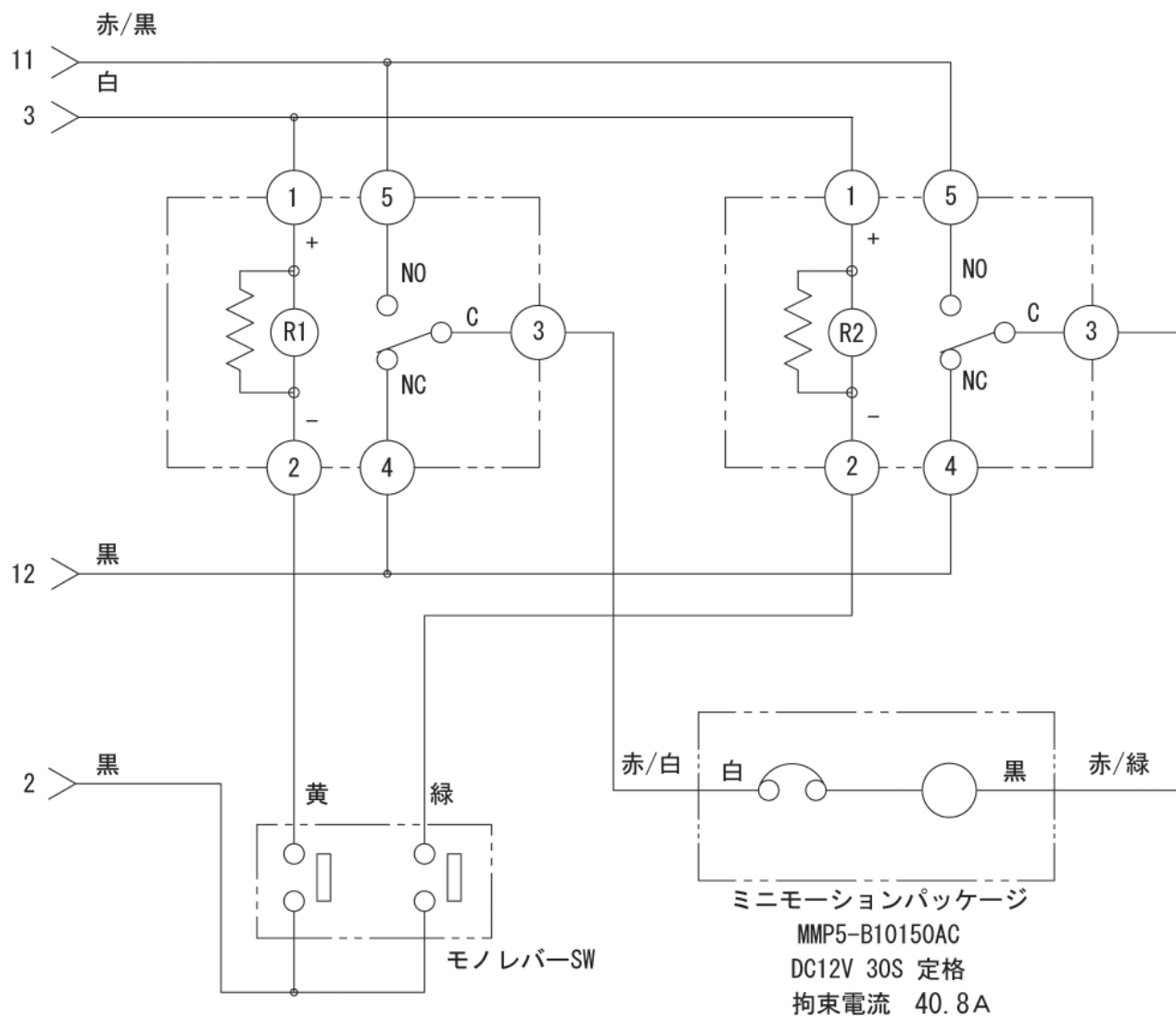


キースイッチ

IG	ST	B'
E		BAT

	BAT	IG	ST	E	B'
切入	●	●	●	●	●
スタート	●	●	●	●	●

●MMP 5 回路図



10章 オプションについて

⚠ 警告

- 急発進、急停車は絶対に行わないでください。危険な上、本機が破損することがあります。

⚠ 注意

- 作業は、作業場所に適した速さで行ってください。
- 作業を始める前に、作業予定区域の安全確認を行ってください。
- 急傾斜や段差の大きい場所からのバンカーへの出入りは避けてください。
- レーキ・仕上げブラシ、カルチベータを降ろした状態で後進すると、本機が破損するおそれがあります。

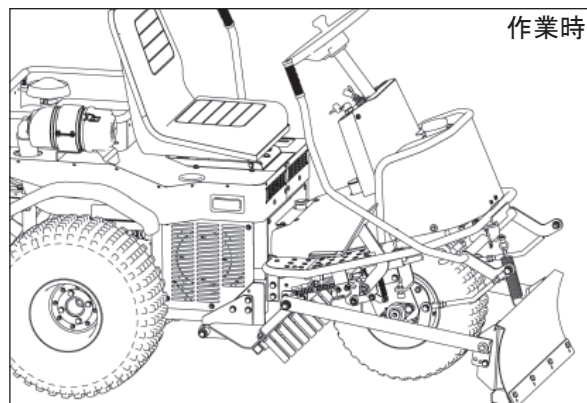
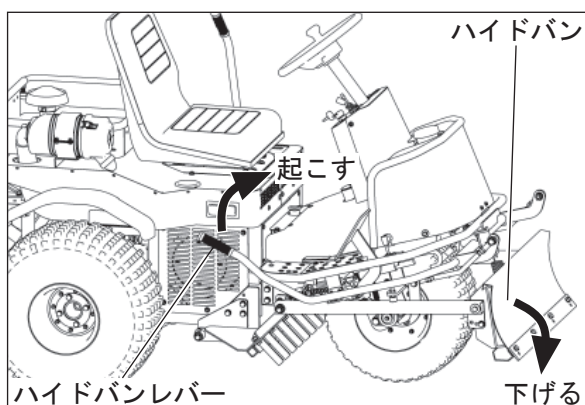
ハイドバンのつかいかた

⚠ 注意

- 本機に乗降するとき、ハイドバンレバーに引っかからないようにしてください。転倒してけがをするおそれがあります。

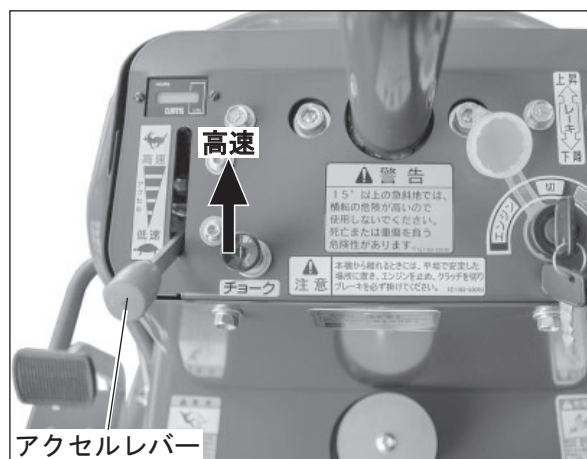
①エンジンを始動して、本機をバンカーに移動させ、駐車ブレーキレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にします。(P 3 1 参照)

②ハイドバンレバーを前方へ起こし、ハイドバンを下げます。



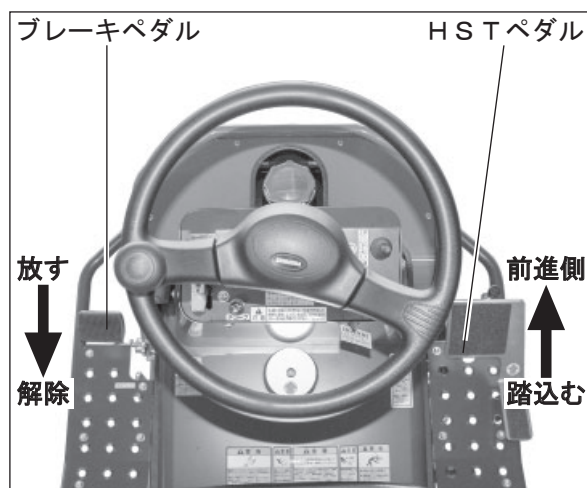
③ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーを「**解除**」位置にします。(P 3 4 参照)

④アクセルレバーを「**高速**」位置にします。



※安全な速度で作業を行ってください。

⑤ブレーキペダルを放して、HSTペダル前進側の方向のペダルを徐々に踏み込んで、ゆっくり発進し、手でハイドバンレバーの高さを調整し、そのまま前進して砂を上げます。



※加速・減速するときは、HSTペダルをゆっくり操作してください。

※HSTペダルは足を放すと戻りますが、アクセルレバーは手で戻さないと戻りません。

⑥整地作業が終了したら、ハイドバンレバーを元の位置まで戻し、ハイドバンを上げてから移動します。

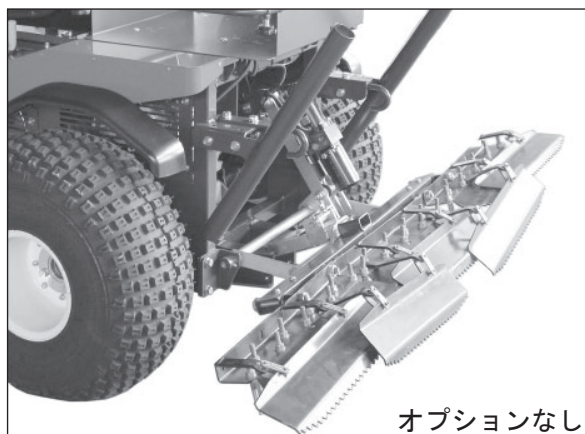
※ハイドバンの取付け方は、「取付要領書」を参照してください。

[重要]

●整地作業以外は、ハイドバンを上げて走行してください。

仕上げブラシのつかいかた

レーキ跡をかき消す為に、レーキに仕上げブラシを取付けて使用します。使いかたは、P 38「5. バンカーの整地作業のしかた」を参照してください。



オプションなし



オプションあり

※仕上げブラシの取付け方は、「取付要領書」を参照してください。

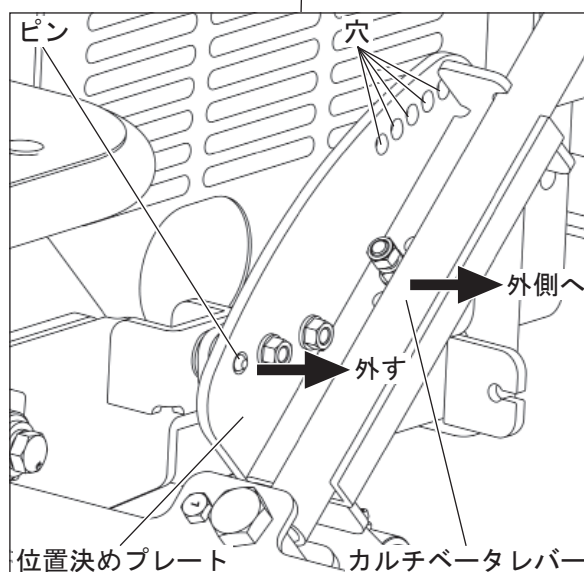
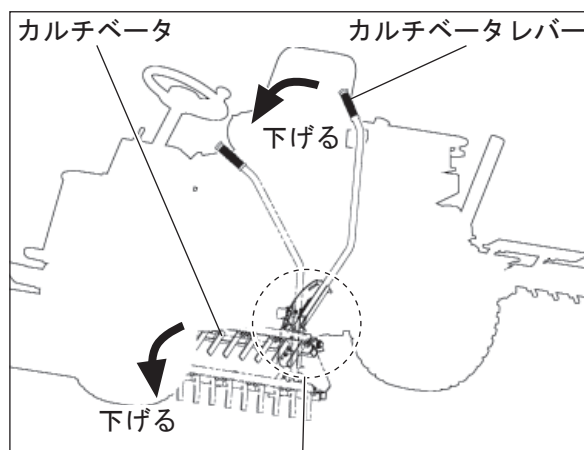
カルチベータのつかいかた

⚠ 注意

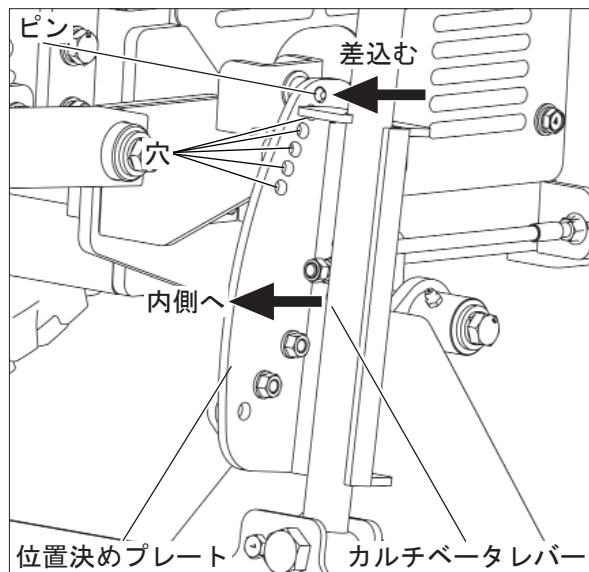
●本機に乗降するとき、カルチベータレバーに引っかからないようにしてください。転倒してけがをするおそれがあります。

①エンジンを始動して、本機をバンカーに移動させ、駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。(P 31 参照)

②カルチベータレバーを外側へ移動させピンを穴から外し、カルチベータレバーを任意の深さまで下げてカルチベータを下げます。

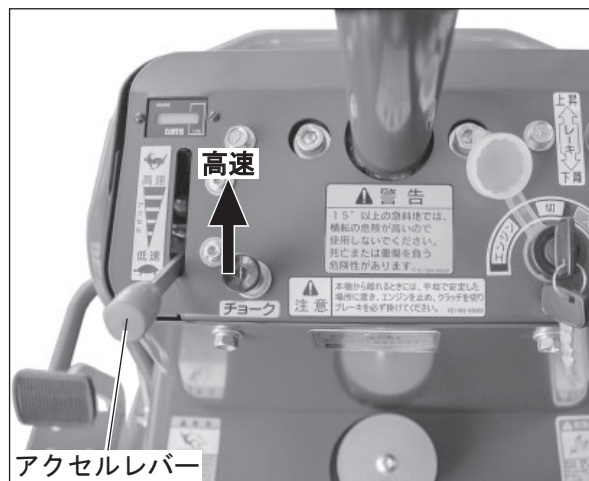


③位置決めプレートの穴へピンを差込みます。

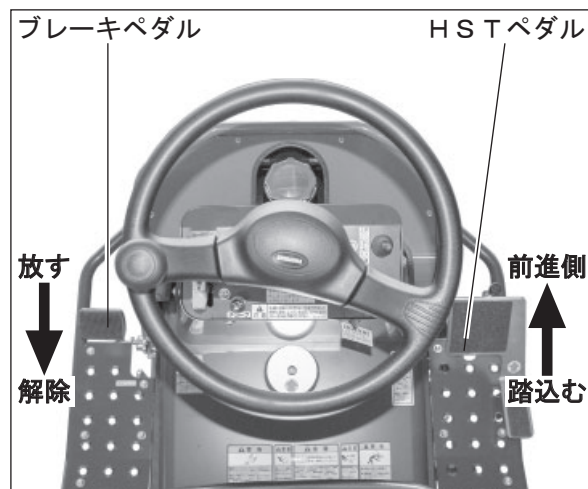


④ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にします。(P 34 参照)

⑤アクセルレバーを「高速」位置にします。



⑥ブレーキペダルを放して、HSTペダル前進側の方向のペダルを徐々に踏込んで、ゆっくり発進し、整地作業を行います。



※安全な速度で作業を行ってください。

※加速・減速するときは、HSTペダルをゆっくり操作してください。

※HSTペダルは足を放すと戻りますが、アクセルレバーは手で戻さないと戻りません。

⑦整地作業が終了したら、カルチベータレバーを外側に移動させピンを穴から外し、位置決めプレートの元の穴位置にピンを差込み、カルチベータを上げてから移動します。

※カルチベータの取付け方は、「取付要領書」を参照してください。

[重要]

●整地作業以外は、カルチベータを上げて走行してください。

株式会社IHIアグリテック

お問い合わせ先

〒390-8714 長野県松本市石芝1-1-1 TEL.0263(88)0200 FAX.0263(26)7517